



## 2009 CSR Report

To be a company that links people with people,  
people with nature, and companies with society.

### 環境・社会活動レポート

エフピコは、

**食品トレー・容器メーカー**です。

エフピコは、

**食卓に豊かさ**をお届けします。

エフピコは、

**売り場に彩り**を提案します。

エフピコは、

**地球環境の未来**を考えます。



株式会社エフピコ

時代に応えよう  
という「使命感」  
は常に持つて  
いました。



## ■福山でまったくの“ゼロ”からスタート

エフピコは1962年、私が24歳のときに創業し、高度成長期とバブル崩壊という2つの大きな時代の転機を経て現在に至っています。創業時、トレーの原料は真珠のような輝きを持っていたことから「パール紙」と呼ばれていました。そこで、社名を福山パール紙工と名付けたのです。現社名のエフピコは、福山の「F」とパール紙の「P」を引き継いだものです。

創業してから5年間ほどは現在のような食品トレーや容器は製造しておらず、ただただお客様の依頼に応じてさまざまな製品を作っていました。お寿司





写真提供：朝日新聞社

やパーティ用の皿、お菓子や市販薬の内装などです。製造用の枠にはまだ木型を使っていました。

## ■高度成長という“大波”に乗って

その後、今のようなスーパーマーケットが福山にも進出してきて、だんだんとトレーを作るようになったのです。食品の大量生産に伴って流通の形態が変わり、食品トレーの利便性が必要とされたのです。私たちはスーパーさんが求めるトレーの需要に追いつこうと必死で製造しました。福山の小さな企業だったエフピコを、日本の高度成長の波は沖へと連れていってくれたのです。

もちろんすべてが順調だったわけではありません。創業10年目には石油ショックに直面し、大量の在庫を抱えたこともありました。慢心して失敗したこともありましたが、無心で仕事に打ち込むことで困難を乗り越えることができました。

## ■時代が求めた“バリエーション”

エフピコはただ単純に時代の波に乗っていただけではありません。お客様が求める製品の開発を怠ることはありませんでした。

1980年代に入り、欧米からの食文化の影響を受けて日本人の食生活が多

様化した時代にはカラートレーを出しました。食のバリエーションに沿った製品の展開が必要だったからです。

## ■エフピコに与えられた“使命”

私は今でも現場、つまり消費者の方々とエフピコ製品の接点であるスーパーマーケットの売り場に足を運びます。「お客様の声に応える」ことがエフピコの使命だと考えるからです。

日本経済が成長を続けていた時代、エフピコもその波とお客様の声に押されて、社会的使命を果たしてきたと自負しています。



## ■ゴミ戦争での“戦い”に挑む

高度成長期時代の負の側面として、日本各地で起きた「ゴミ戦争」を始めとする環境問題の発生がありました。ファーストフードやカップ麺の容器などを通して使い捨て文化が浸透し始めていた時代です。

こうした動きが起きる前から、エフピコでは環境問題に対する懸念を持っていました。私たちは昔から海外研修を行っています。欧米での社会的な動向を見て「日本でも同様のことが起きるだろう」と思っていました。行動を起こす心の準備はできていたのです。

## ■新たな“忍”のスタート

私は“忍”（がまん）を経営における

信念として持っています。思えば創業以来、会社の経営は本当に我慢の連続でした。

エフピコ製品のリサイクル事業を計画したものの、実践に移すまでの困難は想像を絶するものでした。問屋やスーパーなどの流通業の方々の協力に加え、エンドユーザーである消費者の皆さんの協力も必要だったからです。ただ、当時は既に牛乳パックのリサイクルが軌道に乗っていましたので、消費者の方々にはトレーをリサイクルする土壌が十分にあったと思います。

そして1990年、エフピコの新しい歴史が始まりました。トレーのリサイクルが本格的に始動したのです。食品トレーを使い捨てのものとせず、回収してリサイクルする事業は、世界でも例のない環境保全活動です。

## ■“夢”の実現に向かって

いままでは発泡スチロール製の食品トレーのリサイクルがほとんどでしたが、2008年からは透明容器のリサイクルもスタートしました。エフピコが実践するリサイクルにより、便利さはそのままに家庭から出るゴミを減らすお手伝いをしていることに、大きな喜びと誇りを感じています。やがてはすべての使用済みトレーを回収し、完全リサイクル型社会という社会の「夢」を実現できればと思います。

今は環境負荷低減がどの企業にも求められていますが、エフピコも製品のリサイクルだけでなく、もっと大きな視野に立った地球環境保全に関わっていきたく思っています。さらに環境問題に留まらず、さまざまな社会的責任を果たしていくつもりです。障がい者の雇用

新たな時代を  
つくり出すという  
「夢」は持ち続けて  
いきたいですね。



を、もう20年以上続けていますが、会社の発展に伴って社会的な責任も大きくなってきたことを感じています。

「社会的責任を果たす」という言い方をすると義務的にやっている感じがするので、あまり好きではありません。むしろ、私たちは社会の夢を叶えるお手伝いをしていると考えています。「社会の夢はエフピコの夢」なのです。人々が夢を持ち続ける限り、私たちエフピコも、その夢を実現するための努力は惜しみません。夢がある限り、エフピコの歩みは続きます。

代表取締役社長

小 松 安 弘

(2009年6月26日 代表取締役会長就任)





# 2008年度CSRトピックス



T  
O  
P  
I  
C  
S

2008年6月 環境経営  
新中期計画始動



➔ P.21

2008年8月 透明容器リサイクル  
がスタート



➔ P.20, 26

2008年9月 中国ニューオフィス  
推進賞を受賞



➔ P.53

2009年3月 障害者雇用  
優良企業認証



➔ P.46

2009年3月 ふくやま環境賞  
を受賞



➔ P.20



## 編集方針

この「CSR Report 2009」は、エフピコの2008年4月から2009年3月までの環境と社会活動における取り組みをまとめたものです。以下の方針に沿って編集しています。

■エフピコらしさを皆さまにご理解いただけるよう、各活動の実績、これからエフピコが目指す方向性を明確に記載するよう心がけました。

■従業員と関係者のコメントを掲載し、組織の内側からの声を聞いていただくことを心がけました。

■レポートの作成にあたっては、環境省の「環境報告書ガイドライン(2007年度版)」を参考にしました。

■対象期間：2008年4月1日～2009年3月31日

■対象範囲：株式会社エフピコ、およびエフピコグループ

# CONTENTS

- 1 トップメッセージ
- 5 2008年度CSRトピックス
- 6 目次／編集方針

## 会社概要

- 7 プロフィール
- 9 エフピコと日本の食文化
- 11 特別インタビュー

## 経営における取り組み

- 14 コーポレートガバナンス
- 15 コンプライアンスとリスク管理

## 環境における取り組み

- 18 環境方針/環境マネジメント体制
- 21 環境経営新中期計画
- 23 エフピコ方式リサイクル「トレー to トレー」
- 29 製品開発における取り組み
- 31 工場における取り組み
- 35 物流における取り組み
- 37 オフィスにおける取り組み
- 39 工場見学の受け入れ
- 41 5ヵ年計画の進捗状況
- 43 2008年度物質の流れ

## 社会における取り組み

- 46 「つなぐ企業」として社会との絆を求めて
- 47 株主とのかかわり
- 48 消費者とのかかわり
- 49 障がい者の雇用
- 51 お客様とのかかわり
- 53 従業員とのかかわり
- 55 地域とのかかわり
- 56 エフピコのあゆみ
- 58 編集後記



簡易食品容器の製造・販売を通して社会に貢献する、とはどういうことなのかをご説明します。

# 会社概要

人と人、  
人と自然、  
企業と社会をつなぐ企業であるために。

多彩な食品容器で華やかな食卓を演出し、コミュニケーションを円滑にすること。

使用済み容器のリサイクル体制を整え、自然環境への負荷を抑えること。

食品容器を通じて「食」ビジネスを支援し、安全・安心・環境といった社会のニーズに応えること。

エフピコは、これらの課題を高いレベルで実現するために、スローガンを経営の基本方針として位置づけ、それに基づいた経営を行っています。人の暮らしの根幹を支える「食」に関わるメーカーとして、安全であることはもちろん、環境負荷の低い製品をお届けできるよう、日々改善を続けています。

## 企業プロフィール

商号	株式会社エフピコ
設立	1962年(昭和37年)7月
代表者	代表取締役社長 小松 安弘
資本金	13,150百万円
従業員数	648名(エフピコグループ:2,890名)
事業内容	ポリスチレンペーパーおよびその他の合成樹脂製簡易食品容器の製造・販売並びに関連包装資材等の販売
本社	〒721-8607 広島県福山市曙町一丁目12番15号 TEL 084-953-1145 FAX 084-953-4911
東京本社	〒163-6036 東京都新宿区西新宿六丁目8番1号 新宿オークタワー(総合受付36階) TEL 03-5320-0717 FAX 03-5325-7811





# ネットワーク

## ●営業拠点

大阪支店 新潟営業所  
 札幌営業所 北陸営業所  
 仙台営業所 広島営業所  
 名古屋営業所 高松営業所  
 静岡営業所 福岡営業所

## ●工場

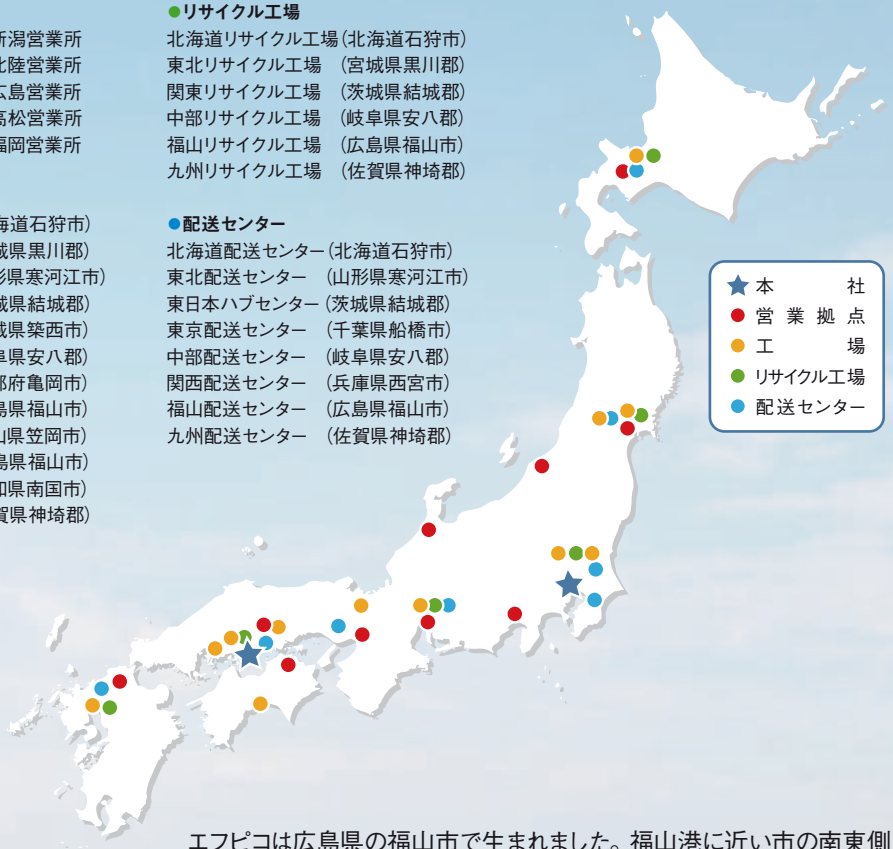
北海道工場 (北海道石狩市)  
 東北工場 (宮城県黒川郡)  
 山形工場 (山形県寒河江市)  
 関東工場 (茨城県結城郡)  
 関東下館工場(茨城県筑西市)  
 中部工場 (岐阜県安八郡)  
 近畿亀岡工場(京都府亀岡市)  
 福山工場 (広島県福山市)  
 笠岡工場 (岡山県笠岡市)  
 神辺工場 (広島県福山市)  
 四国工場 (高知県南国市)  
 九州工場 (佐賀県神埼郡)

## ●リサイクル工場

北海道リサイクル工場(北海道石狩市)  
 東北リサイクル工場 (宮城県黒川郡)  
 関東リサイクル工場 (茨城県結城郡)  
 中部リサイクル工場 (岐阜県安八郡)  
 福山リサイクル工場 (広島県福山市)  
 九州リサイクル工場 (佐賀県神埼郡)

## ●配送センター

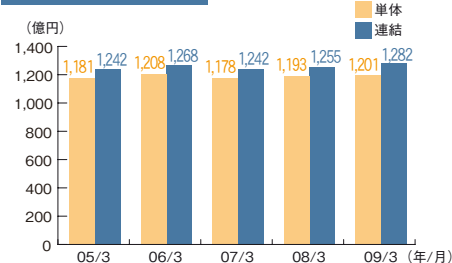
北海道配送センター(北海道石狩市)  
 東北配送センター (山形県寒河江市)  
 東日本ハブセンター(茨城県結城郡)  
 東京配送センター (千葉県船橋市)  
 中部配送センター (岐阜県安八郡)  
 関西配送センター (兵庫県西宮市)  
 福山配送センター (広島県福山市)  
 九州配送センター (佐賀県神埼郡)



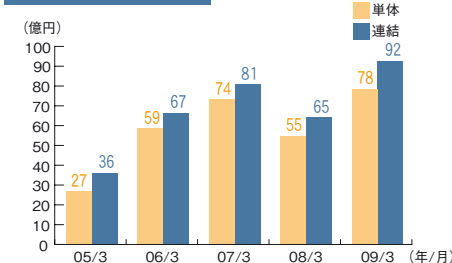
エフピコは広島県の福山市で生まれました。福山港に近い市の南東側には本社社屋を始めとして工場、倉庫、配送センターなどさまざまな施設があります。写真は港を望む丘から瀬戸内海方面に広がる風景の中に見える、エフピコの生産工場、配送センターとリサイクル工場です。

## 主要な経営指標

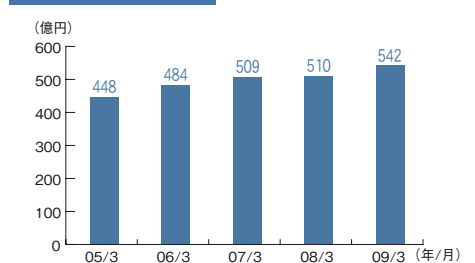
### 売上高(連結/単体)



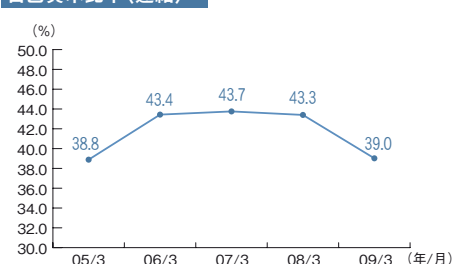
### 経常利益(連結/単体)



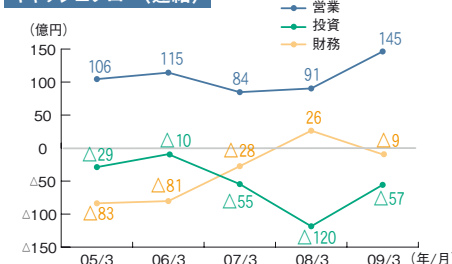
### 純資産額(連結)



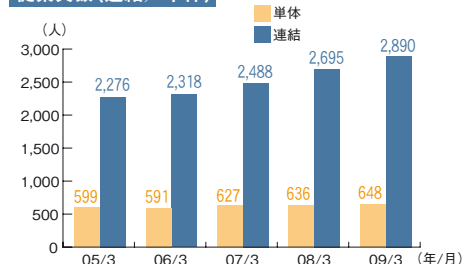
### 自己資本比率(連結)



### キャッシュフロー(連結)



### 従業員数(連結/単体)





# 会社概要

## エフピコと日本の食文化

### 時代のニーズに応じてきたエフピコ製品

日本の食文化の移り変わりとともにエフピコの製品は進化していきました。  
エフピコが作るのは食品容器ですが、人々の食生活を豊かにするお手伝いもしてきました。



1950年代の食卓風景

#### 1950年代

インスタントラーメン誕生。ちゃぶ台でごはんを食べる時代。食生活の西洋化がスタート。

#### 1960年代

団地など住環境が変わり、テーブルで食事をする生活が始まる。  
食品トレーが誕生。  
トレーといえば常識だった「白トレー」①。

#### 1970年代

カップ麺が普及し始める。「ほか弁」など持ち帰り弁当の時代が始まる。

#### 1980年代

時代は高度経済成長期、飽食の時代。  
食品容器のファッション化に対応して発売された「カラートレー」②。

#### 1990年代

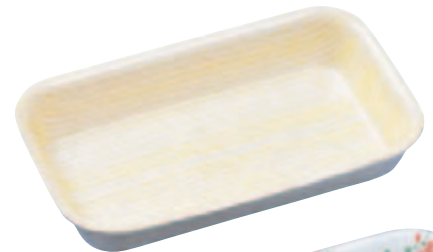
1億総グルメの時代と呼ばれる。コンビニが普及すると同時に、環境を配慮したりサイクルの動きが始まる。  
業界初のエコマーク認定を取得した「エコトレー」③。  
主流だったラップに比べ、盛り付けや陳列効果を格段に高めた「蓋付容器」④。

#### 2000年代(現在)

大食い番組やグルメ番組がヒット。ライフスタイルの多様化に伴い、食のニーズも多彩に変化する。  
様々な用途に対応するバラエティ豊かな食品容器⑤。



①



②



③



④



肉、魚介類、野菜とさまざまな旬の素材の旨みや鮮度を演出する蓋付き鍋容器。汁漏れしない工夫がされている。

⑤



食品の持つ華やかさやみずみずしさを映し出す透明容器。サラダやカットフルーツなどに用いられる。



日本の食文化でもあるお弁当用の容器。仕切りを設けることにより、食べ易さを追求し、配色を引き立てる役割も果たす。

毎日の食生活において、エフピコの製品はなくてはならないものになりました。時代のニーズに応えるだけでなく、食品容器を通して食生活を豊かにするためのさまざまな提案も行っています。



## エフピコをサポートするグループ会社

### ■製造

- ・株式会社エフピコ仙台
- ・株式会社エフピコ山形
- ・株式会社エフピコ下館
- ・株式会社エフピコ茨城
- ・株式会社エフピコ中部
- ・株式会社エフピコ箕島
- ・株式会社エフピコ福山
- ・株式会社エフピコ笠岡
- ・株式会社エフピコ神辺
- ・株式会社エフピコ佐賀
- ・株式会社エフピコエンジニアリング
- ・株式会社ダックス
- ・株式会社ダックス四国
- ・株式会社ダックス佐賀
- ・エフピコ愛バック株式会社
- ・株式会社ノダヤ
- ・テイカ精密株式会社



(株)ダックス四国

### ■商社

- ・エフピコ商事株式会社

### ■販売

- ・エフピコチューバ株式会社

### ■小売り

- ・株式会社エフピコモダンバック

### ■その他

- ・株式会社クックラボ



通信販売を展開する  
(株)エフピコモダンバックのホームページ

### ■物流

- ・エフピコ物流株式会社
- ・エクセル物流株式会社
- ・エフピコピッキング株式会社
- ・エフピコ中部物流株式会社
- ・エフピコ関東ピッキング株式会社
- ・エフピコ九州物流株式会社
- ・株式会社アイ・ロジック



エフピコ物流(株) 福山本社



# 会社概要

## 特別インタビュー

### エフピコは日本の食文化を創造しています

食品容器は、食品を生産地から食卓へと届けるための単なる容器だと思われています。しかし実際には、日本人の食生活に少なからず影響を与える存在でもあるのです。長年日本の惣菜市場を見てきた成田廣文先生にお話を伺いました。

#### まず最初に、日本における惣菜・弁当市場と食品容器との関係についてお話しいただけますか？

惣菜やお弁当をお店で買って家庭などで食べる、いわゆる中食（なかしょく）は日本独特の食文化でして、家庭での食事とレストランなどで食事をする外食との中間に位置します。調理済みの食品を持ち帰るということですから、それを入れるための容器が必要だったわけです。

食品容器が登場する以前、お惣菜ならポリ袋や紙の袋に入れていたかもしれませんが、お弁当をテイクアウトするのは無理でしたね。テイクアウトのお弁当と言えば、駅弁だけだった。

それが1970年代にカップ麺や海外から進出してきたファーストフードの影響もあり、容器に入れて持ち帰ることが浸透してきたわけです。

そんな状況のなかで食品容器が活用されるようになり、日本の中食市場は成長していったわけです。

#### つまり、食品容器は時代のニーズにマッチしたということですか？

そうですね、中食市場と食品容器の発展は、ある意味必然的なものだったかもしれません。当時の日本は女性の社会進出



も本格的にスタートし、家事にかかる時間と反比例して中食への需要は増えていきました。

70年代から80年代にかけては、食品容器の広がりより、消費者の方々のニーズの方がはるかに大きかったと思います。

例えば、昔ならお豆腐屋さんにお豆腐を持って行って買いました。水をこぼさないよう、ゆっくり歩いてお豆腐を持ち帰ったお母さんたちがほとんどだったわけです。でも、お豆腐を入れる専用の容器があれば、豆腐と一緒に他のものを買って帰れる。

家事の時間を短縮したい女性にとって、調理済みのお惣菜などはとても便利な存在ですよね。ヒジキと豆の煮物をゼロから作るのは時間がかかりますから、今ではほとんどの方がスーパーで買ってくるのではないのでしょうか。


#### 便利さ以外にも食品容器のメリットはありますか？

少し大げさな言い方かもしれませんが、食品容器は人々の食生活を豊かにすると言えるかもしれません。

食品売り場で買い物をする場合、私たちはどうしても、売る側の都合優先の買い方を強いられます。例えば量ですね。3人家族、4人家族を想定した量でしか売らないものもあります。



## 食品トレーの優れた特性

<p><b>軽い</b> 発泡体でとても軽いため、取り扱いや輸送も容易です。</p>	<p><b>強い</b> 気泡構造だから強さも十分あります。</p>	<p><b>断熱性</b> 保冷、保温に優れた断熱性を発揮します。</p>
<p><b>耐水性</b> 水分を多く含んだ食品でも変形せず水を透過させません。</p>		<p><b>クッション性</b> 緩衝性(クッション性)に富み、食品を優しく保護します。</p>
<p><b>衛生的</b> 空気中の細菌から食品を守り、食中毒予防など衛生面でも役立ちます。</p>		<p><b>鮮度保持</b> 生鮮食品を保護し、鮮度保持にも効果的です。</p>

でも、もし買い手の求める分量で持ち帰れる容器があれば、欲しい分だけをその分の値段で買うことができます。要するに、買い手の視点に立った食品容器があればいいわけです。

ただ、容器メーカーさんにもメーカー側の都合というがあるので、消費者の要望をすべて叶えられるわけではない。さまざまな条件のせめぎ合いの中で、消費者の都合に合致した容器が開発されると、その中に入る食品がヒット商品になることもあります。容器がヒット商品を生むという例ですね。

また、容器に入れた食品は衛生管理や温度管理が容易にできます。これは大きなメリットだと思います。お店の中は大勢の人がいて、落下菌にさらされる場所ですから。

### これから食品容器の需要はどのように変わっていくとお考えでしょうか？

最近ではライフスタイルが多様化して「個食」という現象が広がってきました。ひとりで食べる分だけ買いたい、という要望に食品容器はとても適しています。1個500円する高級おにぎりに適した容器もあります。

また、家庭の主婦も仕事以外に趣味の時間を持つため、もっと効率的に食事の準備をしたいと考える方が増えています。調理済みの食品を上手に活用する必要性は今後も増えるでしょう。そうなると調理済み食品用の容器も、その用途によってバリエーションが増えるのではないのでしょうか。

ひとつ具体的な例でお話すると、これからは容器の蓋がもっと注目されると思います。最近は汁モノが漏れないような蓋も開発されています。また、食べ残したものを冷蔵庫などで保存する上でも蓋はとても便利です。

エフピコさんには新しい容器をたくさん作っていただき、私たちがワクワクさせて欲しいですね。



### 成田廣文氏プロフィール

立教大学経済学部卒業。実家の鮮魚店を食品スーパーに業態変更して開店したものの、スーパーの売上が半減。利益確保の手段としておにぎり、サンドイッチなどから惣菜の販売を開始。1989年には全国スーパーなどから問合せが殺到し、コンサルタント業務を開始。1994年に成田惣菜研究所を設立して現場指導、研修、惣菜情報誌の三つを中心にコンサルティング業務を展開。顧客企業はスーパーなど全国800社に上る。



# 経営における取り組み

すべてのステークホルダーに信頼していただける企業であるための内部体制の整備についてご説明します。



本社の執務フロアは、中央にサプライチェーンマネジメント (SCM) の部署を円形に配置するというユニークなレイアウトになっています。生産と物流の計画という業務の心臓部を司るSCMを中心として、他の部署を放射線状に配置し、業務の円滑な推進というひとつの目的に向けて全社員の気持ちをひとつにする工夫としています。

# コーポレートガバナンス

## エフピコのコーポレートガバナンス

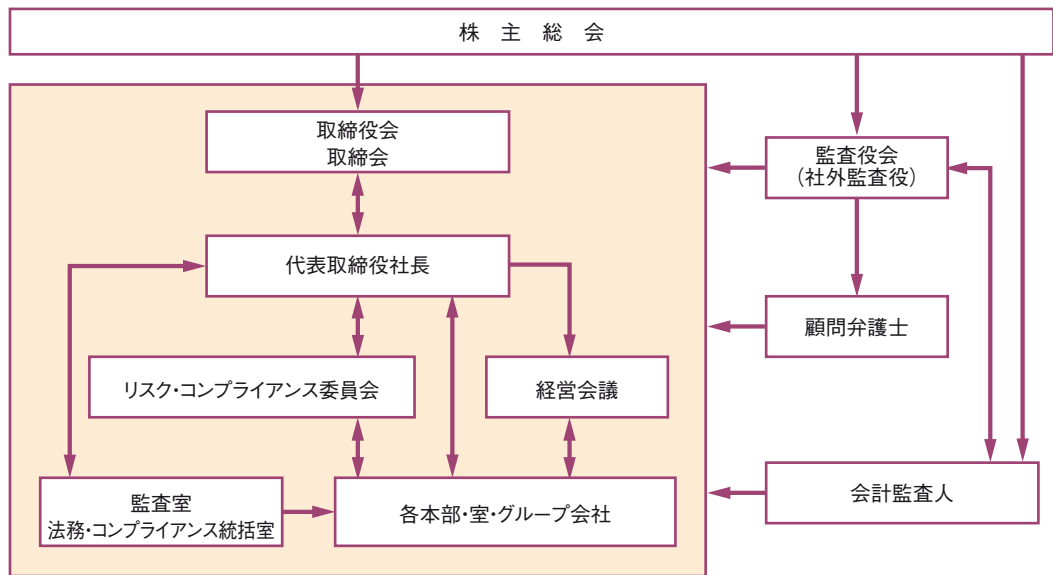
コーポレートガバナンスとは、経営者が社会や株主を含むさまざまな利害関係者に十分に配慮した企業経営を行っているかどうかを、企業自らが監視する仕組みのことを指します。当社ではそのような認識に基づき、コーポレートガバナンスの基本方針として経営戦略に関する「意思決定の迅速化」と「経営の効率化」、「透明性の確保」を掲げています。

株主・投資家、消費者・顧客、債権者・取引先等の利害関係者から信頼を得るとともに、良き企業市民として社会から受け入れられる企業であるために、当社では企業活動に関するさまざまな情報の、積極的な開示に努めています。

## 取締役会と監査役会

エフピコでは「監査役会制度」を採用しており、法令に基づき取締役会及び監査役会を設置しています。取締役会については、経営の透明性を確保するため、毎月、定例取締役会を開催しているほか、必要に応じて臨時の取締役会を開催することで、意思決定の迅速化を図っています。また、そのほかにも経営会議等を開催することで、経営上の課題について、さまざまな角度から十分に議論できる体制をとっています。監査役会については、常勤監査役4名で構成されていますが、そのうち2名は、監査の公平性を高めるため社外監査役です。監査役は取締役会や、その他の重要会議に出席し、経営についてのモニタリングに携わっています。監査役は、監査上の重要事項について説明を求め、会計監査人と定期的な会合を持っています。また、監査役は内部の監査部門と緊密な連携を保ち、効率的な監査を実施するよう努めており、内部監査部門とも定期的な会合を持っています。

### ●コーポレートガバナンス体制図



### 財務報告に係る内部統制報告制度への対応

2008年4月より、社内に組織された「内部統制プロジェクト」を中心に整備してきた内部統制の文書類を基に運用テストが実施されてきました。今後の全社的な管理体制として、副社長を委員長とする「内部統制委員会」が、各部門の体制整備を推進していくことになりました。



# 経営における取り組み

## コンプライアンスとリスク管理

「食」に携わる企業として、法令やモラルを遵守し、各種のリスクに備えることは大切なことです。

### 基本的な考え方

食の安全・安心を食品容器の面から支えるエフピコグループでは、ステークホルダーの皆様から信頼され社会的責任を果たしていくには「コンプライアンスの浸透」と「リスク管理」を最も重要な活動の一つと位置づけております。役員及び従業員が、法令遵守にとどまらず、高い倫理観と社会的良識をもって行動するように「エフピコ行動憲章」と「エフピココンプライアンス行動規範」を制定して、コンプライアンスの浸透に取り組んでいます。

### コンプライアンスの浸透に向けて

企業倫理の確立と法令遵守を推進するため、2007年に社長直轄の法務・コンプライアンス統括室を設置し「エフピコ行動憲章」、「エフピココンプライアンス行動規範」及び「行動羅針盤」等を用いて、健全な企業風土の醸成とともに、業務関連法令や企業倫理を含めた社内規程の遵守の指導徹底に取り組んでいます。

### リスク管理の強化に向けて

コンプライアンス、自然災害、安全衛生等、部門をまたがる全体的またはグループとしての対応を必要とするリスクについては、リスク・コンプライアンス委員会が対応します。

万一、不測の事態が発生した場合は、リスク・コンプライアンス委員会委員長が緊急対策本部を設置して、危機的事態の早期終結および再発防止策の検討・実施を行います。



### 行動羅針盤

あなたの行為は、法令に違反しませんか

あなたの行為は、会社の方針に背きませんか

あなたの行為は、世間の常識に反しませんか

あなたの行為は、あなたの良心に背きませんか

あなたの行為は、エフピコブランドを傷つけていませんか



エフピコ グループ

### 行動羅針盤

エフピコでは、従業員一人ひとりのコンプライアンス意識を高め、エフピコの社員として責任ある言動を心がけることができるよう、行動のための指針である「行動羅針盤」を定め、社内に周知徹底しています。また、この「行動羅針盤」は来客が訪れる受付や打ち合わせスペースにも掲示し、社外の方に対して当社のコンプライアンスへの取り組みを宣言しています。





本社の1階エントランス部分。食品容器メーカーとしての清潔感を表現した白を基調にしていますが、公明正大で透明性の高い企業でありたいという思いの表れでもあります。



## エフピコ 行動憲章

株式会社エフピコの役員並びに社員は、当社の経営理念に基づき、法令、協定及び社内規程等を遵守するとともに、高い倫理観と社会的良識をもって、以下のとおり行動する。

1. 社会に有用な製品・情報・サービスを提供し、消費者・顧客の満足と信頼の獲得に努める。
2. 安全・安心・環境に配慮した製品を開発、提供し、もって食文化の発展に寄与する。
3. 消費者・顧客の協力を得て、「エフピコ方式」の循環型リサイクルを積極的に推進し、拡大生産者責任を果たし、地球環境の保全に努める。
4. すべての事業活動において、公正、透明、自由な競争を行う。
5. 株主や当社製品の利用者と広くコミュニケーションを行い、企業情報を積極的かつ公正に開示する。
6. 社員の人権と個性を尊重し、安全で働きやすい職場環境を実現する。
7. 政治、行政、取引先等とは、健全かつ正常な関係を保ち、市民社会に不安と脅威を与える反社会的勢力および団体の不当・不法な要求には一切応じない。
8. 良き企業市民として、積極的に社会貢献活動を行う。
9. 海外においては、各国の法令を遵守し、文化や慣習を尊重して事業活動を行う。
10. 経営全般にわたり有効性を評価し、合理化、効率化に努めて企業価値を高める。
11. 役員は、本憲章の精神と自己の役割を理解し、率先垂範のうえ、社員、グループ企業並びに取引先へ周知するとともに、社内体制の整備と見直しを積極的に行う。
12. 本憲章に反するような事態が発生したときは、会社の責任において、役員・社員一体となり、問題解決にあたり、原因究明と再発防止に努める。また、関係者の権限と責任を明確にしたうえ、厳正な処分を行う。



新入社員研修の様子



簡易食品容器を製造・販売する企業として地球環境保全のために実践していることをご説明します。

# 環境における取り組み

1999年に稼働を開始した関東のリサイクル工場。  
朝早くから夜遅くまで稼働させています。



## 環境方針

### 基本理念

当社は地球環境の保全が最重要課題であるとの認識のもとに、環境と調和し持続的発展が可能な社会の実現に貢献することを基本理念として事業活動を推進する。

### 方針

- 1 CO<sub>2</sub>削減、天然資源の有効活用の立場から、当社の事業活動、製品及びサービスの省資源化につとめると共に、一般家庭から排出される使用済み容器を再生利用する『エフピコ方式』のリサイクル事業を積極的に推進する。
- 2 環境側面に関係して適用可能な法的要求事項、及び当社で同意するその他の要求事項を順守すると共に、著しい環境側面に対し自主基準を定め、汚染の予防を行う。
- 3 環境側面を考慮して環境目的及び環境目標を定め、管理計画を立案、推進すると共に、内部監査及び最高経営層による見直しを実施し、継続的改善を行う。
- 4 この方針は、環境マネジメントシステムを確立し、実行し、維持する。
- 5 この方針は、文書化し、全従業員及びエフピコ敷地内契約者にも周知徹底する。
- 6 この方針は、パンフレット、インターネットを通じ一般の人にも開示する。

株式会社エフピコ 代表取締役社長

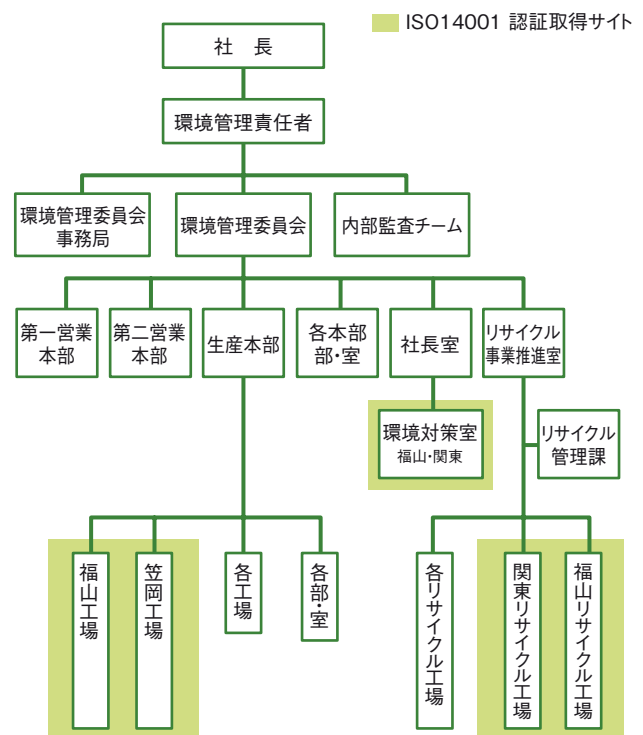
小 松 安 弘

2008年5月30日

## 環境マネジメント体制

エフピコは、環境負荷低減への取り組みに全社を挙げて取り組んでいます。また、その取り組みを効果的に行うとともに、継続的なものとして社内に根付かせていくために、社内の取り組みをリードする「環境管理委員会」を組織。環境マネジメントシステムの導入により、継続的改善に向けて全社的な活動を続けています。

### ●環境マネジメント体制





# 環境における取り組み

エフピコでは2006年に「環境経営5ヵ年計画」をスタートさせ、2008年度に至るまで項目ごとに設定した目標を順調に達成してきました。そこで「もっと改善できる余地はある」という思いのもと、さらなる成果を上げるための新計画を立案中です。この「環境経営新中期計画」では全部署が連動し、製品がライフサイクルを通して排出するCO<sub>2</sub>の削減を目指します。現場で常に新しいことにトライし、小さな成果を積み上げていった結果として、システムの改革という大きな成果を目論んだチャレンジをする土壌ができあがりました。食品トレーのリサイクル事業を開拓してきたエフピコにとって、新しいことへの挑戦は日常の努力の延長線上にあります。



新中期計画スタート  
» P21



エフピコ方式リサイクル  
「トレー to トレー」  
» P23



製品開発における  
取り組み  
» P29



工場における取り組み  
» P31



物流における取り組み  
» P35



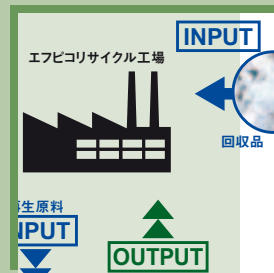
オフィスにおける取り組み  
» P37



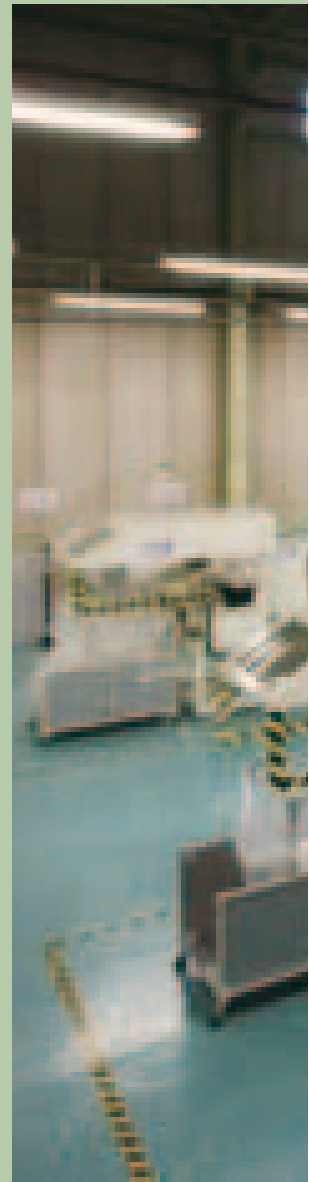
工場見学の受け入れ  
» P39

2008年度成果	評価
%削減	◎
値方法を見直し中	-
%削減	×
続実施中	○
続実施中	○
%削減	◎
ICW: 7%増、KT反: 17%減	×
規制値以下を確認	○
	-
規制値以下を確認	○

5ヵ年計画の進捗状況  
» P41



2008年度物質の流れ  
» P43





本格始動した透明容器リサイクル工場。手前に見えるのは、異なる素材の透明容器を赤外線により選別する装置。



TOPICS

## 第1回「ふくやま環境賞」を受賞しました

ふくやま環境賞は福山市を中心として活動し、地球温暖化防止活動及び3R推進など環境にやさしい取り組みを実施する事業者及び団体を表彰するもので、今回が第1回目の表彰となります。エフピコは事業所部門で受賞した3社のひとつでした。受賞のポイントは消費者・スーパーマーケット・問屋・エフピコの4者が協力して納品の帰り便トラックで回収する画期的な回収システムを構築したこと、選別・洗浄・脱水等再商品化プロセスという理想的な循環システムの完成、消費者との長期にわたるコミュニケーション活動、「エコトレ」の販売量が市場に流通する汎用トレの約2割を占めていること、2008年より本格実施している透明容器リサイクルなどです。今後ともエフピコ方式のリサイクルの拡大はもとより、CO<sub>2</sub>削減活動、3Rの推進、地域との連携強化に取り組んでまいります。



TOPICS

## 透明容器のリサイクルが本格化

透明容器のリサイクルが本格的にスタートしました。全国のスーパーなどから回収した、さまざまな種類の食品用透明容器をリサイクルする上で最も大変なのは、素材ごとに選別する作業です。回収した容器に赤外線を照射し、素材の種類を感知して容器を選別します。その他、人手に頼らなければならない作業を経て集められ、リサイクル工場へと送られます。今後は発泡スチロールのトレ同様に、順次回収量を増やしていく予定です。



# 環境経営新中期計画がスタート

TOPICS

エフピコ環境経営5カ年計画の4年目、そして創立50周年を間近にした2009年、わたしたちは新たなプロジェクトに着手します。5カ年計画が順調に進展している今年度、次なる目標、さらに大きな目標の達成に向けて動き出しました。



## エフピコ・エコアクション50 F P E A - 5 0

創立50周年を間近に控えた2009年にスタートするエフピコ・エコアクション50は、エフピコによる地球環境保全活動を、より全社的な活動として位置づけ、関係部署と全従業員を有機的に結びつけて展開する一大プロジェクトです。

トップマネジメントが策定した環境方針に基づき、各部署が連携して目的達成のための施策を実践します。このプロジェクトの大きな特徴は、製品がライフサイクルを通して排出するCO<sub>2</sub>をエフピコの各部署が連動してトータルに削減することです。今までのように各部署ごとの縦割りの戦術ではなく、トップマネジメントがトータルに考え、全部署が連動して実行する戦術となるのです。

エフピコの新たな試みにご期待ください。



今までは各部門がそれぞれ目標を設定して省エネやCO<sub>2</sub>の削減を行ってきましたが、部門という垣根を越えた大きな視点を持つことで、より効果的な地球環境保全活動を展開しようというのがこのプロジェクトの目的です。ただ、これは各部門の現場による地道な努力があったからこそ可能になったのであり、毎日の積み重ねの結果だと思っています。現場の活動から乖離せず、大きな視点からの効率性も達成するプロジェクト。それが「エフピコ・エコアクション50」です。

代表取締役副社長 佐藤 守正

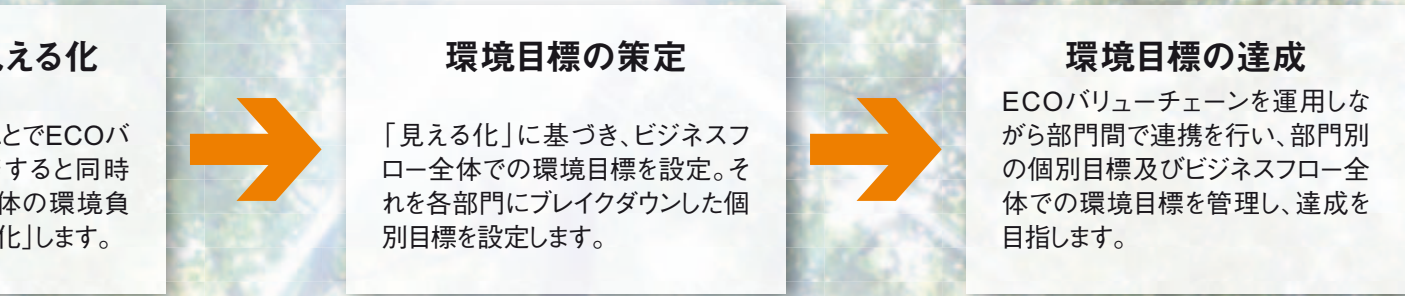
(2009年6月26日 代表取締役社長就任)

### 環境負荷の見

各部門を連動させるこ  
リューチェーンを構築  
に、ビジネスフロー全  
荷を徹底的に「見える

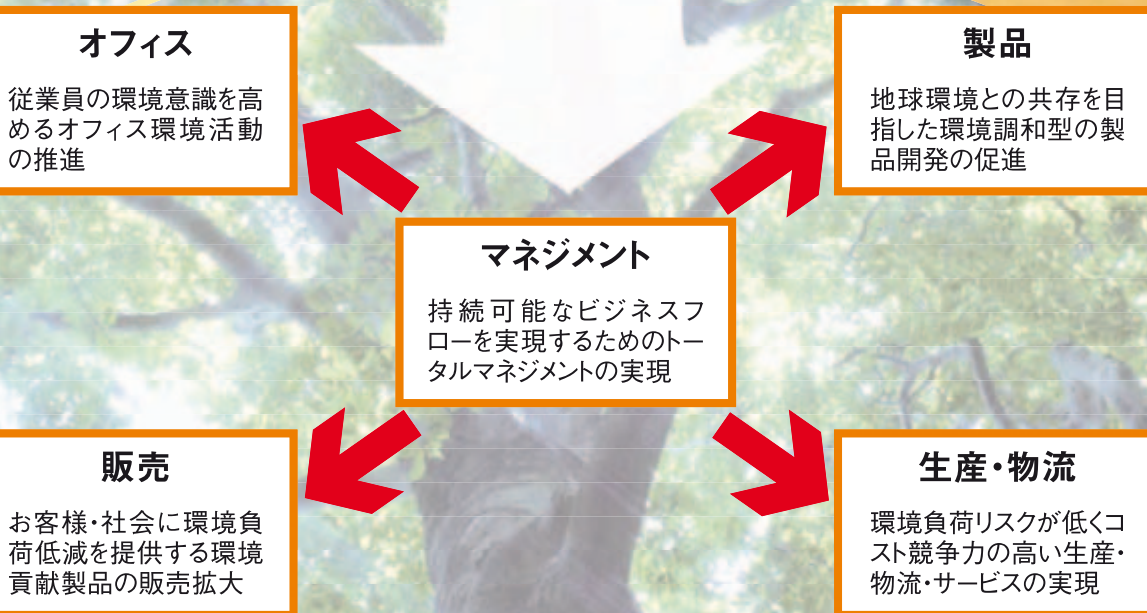
## 実施プロセスの概要

新中期計画ではステップを3段階に分け、プロジェクトを遂行します。



## 実施方法の概要

マネジメントが構築したプランを、実働部隊である各部署がECOバリューチェーンを構成しながら連動して実施していきます。

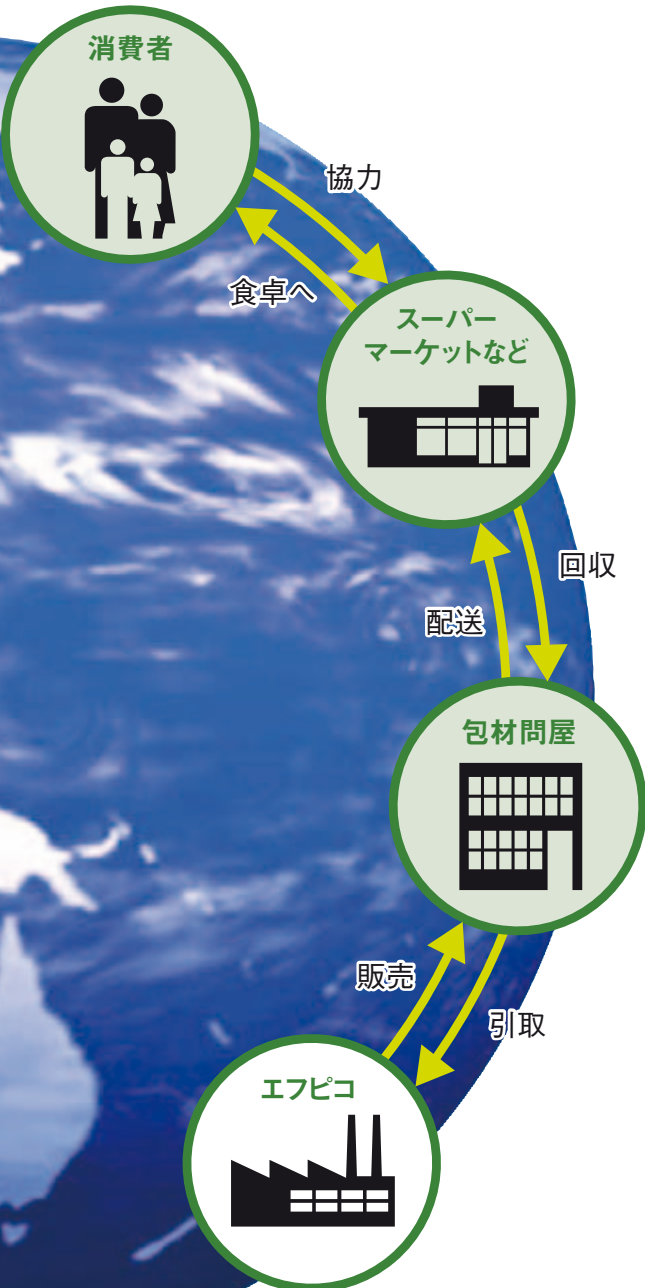


ECOバリューチェーン

# エフピコ方式リサイクル「トレー to トレー」<sup>®</sup>

エフピコ方式の食品トレーリサイクルシステム、「トレー to トレー」をご説明します。

食品トレーを使い捨てるのとはせず、何度も繰り返し利用するため、エフピコでは「エコトレー」(再生トレー)を生産しています。そのためのリサイクルシステムをエフピコ方式リサイクル「トレー to トレー」という名前で呼んでいます。生産者であるエフピコから最終的な使用者である消費者へと至る道を逆に辿り、使用済みトレーをエフピコへと戻すこのシステムでは、生産・流通・使用・消費の4つの過程に関わるすべての方の協力が不可欠なのです。「トレー to トレー」はトレーを人々の気持ちに乗せてリレーします。



## 消費者

消費者の方には、主に使用済みの発泡スチロールトレーを分別し、水洗いと乾燥をお願いします。



洗剤で油を落とす必要はありません。

使用済みトレーは、汚れた食器を洗うついでに水洗いしていただくのが効率的です。



乾燥後はまとめてスーパーなどの回収ボックスにお持ちください。



食品トレーに乗ったさまざまな食材が毎日の食卓を豊かなものになっています。





## スーパー マーケットなど

消費者から持ち込まれたトレーは、スーパーマーケット店頭での回収箱や自治体などで集められます。



消費者とエフピコを結ぶ重要な役割を担うのが、使用済みトレーの回収場所をご提供いただくスーパーマーケットなどの小売店舗です。



牛乳パックやペットボトルとならび、今では使用済みトレーの回収も定着しています。



Odakyu OX 万福寺店  
店長

渡辺一夫様

まとめてたくさんのご使用済みトレーを持って来られる方が多いです。他店のトレーも入っていても構いませんが、お客様にとっては同じトレーですからね。励みや感謝の言葉を掛けていただくことも、よくありますよ。お客様からの要望もありますし、これからは透明容器の回収も行います。将来的には全店舗でやることになるでしょう。



## 包材問屋

包材問屋には、スーパーマーケットなどに納品した帰りの便を利用して、使用済みトレーの引取と一時保管をお願いしています。



包材問屋はエフピコ製品とスーパーなどの小売店舗を繋ぐ大切な役割を担っています。



回収された使用済みトレーは、問屋の敷地内に保管されます。週に数回、エフピコが納品の帰り便でトレーの回収を行います。



インターパック(株)  
営業本部

沢野敏夫様

使用済みトレー回収の話のエフピコさんから持ちかけられた時は、正直に言って負担を感じました。初めての経験でしたから。ゴミが混ざっていたり、洗浄してなくて臭ったりとか最初の頃はいろいろありましたよ。でもおかげさまで、現在の弊社従業員の環境問題に対する意識は、結構高いと思います。今後は回収のさらなる効率化も図っていきたくと思っています。

# エフピコ方式リサイクル「トレー to トレー」®



## エフピコリサイクル工場

回収された使用済みトレーは、全国6ヵ所のリサイクル工場に運ばれ、もう一度トレーとして生まれ変わります。



### ① 搬入



回収されたトレーや容器は、各地区のリサイクル工場に搬入されます。

### ② 選別



再生できないトレーなどを取り除き、白トレーとカラトレーに分類します。

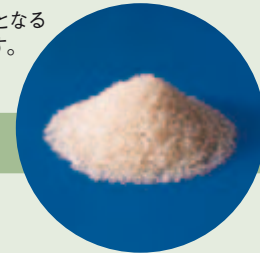


(株)エフピコ福山  
リサイクル工場 係長  
後藤通張

工場は朝の6時30分から夜の11時まで稼働しています。人は2交代制ですが、機械は止まることはありません。機械が止まってしまうと人が働けなくなりますから、メンテナンスには非常に気を遣いますね。徹夜で作業をすることもあります。

### ペレット

エコトレーの原料となるペレットの完成です。



### ⑦ 検査



### エコトレーの完成





**3 洗浄**



分類されたトレーを真水で繰り返し洗浄します。

**水処理装置**



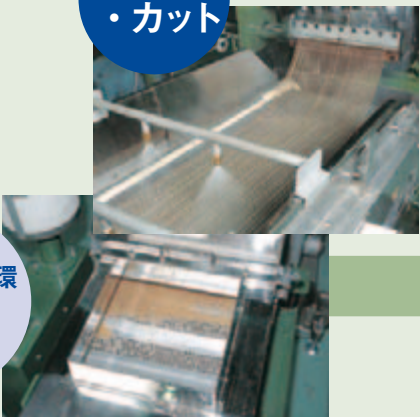
洗浄後の水は浄化して再利用しています。一部は浄化後、河川や下水道に放流しています。

**4 破碎**



チップ状になるまで細かく破碎します。

**6 溶融・カット**



乾燥されたチップを溶かして粒状に加工します。

**5 乾燥**



破碎されたチップを乾燥させます。

**クーリングタワー**



**TOPICS**

**透明容器のリサイクルがスタート!**

惣菜、弁当容器の蓋、寿司の容器として近年特に増えてきた透明容器についても、2008年10月より本格的にリサイクルをスタートしました。透明容器の本格的リサイクル事業は、世界的にも例のないことです。今後は関係部門を含め、ユーザー、消費者の皆様にご協力を仰ぎながら、透明容器の回収量増加ならびに高品質な再生原料の生産に力を入れてまいります。



# エフピコ方式リサイクル「トレー to トレー」<sup>®</sup>

## 「トレー to トレー」による成果をご説明します。

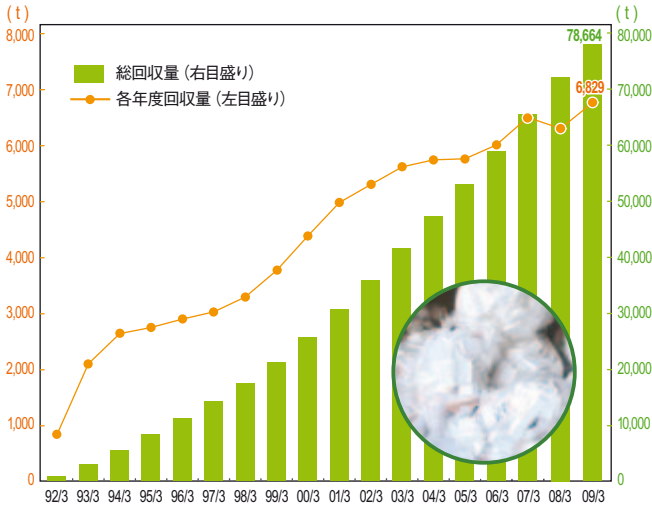
エフピコ方式のリサイクル「トレー to トレー」を開始して18年半が経ちました。取り組みの成果は廃棄物の削減、資源の有効活用にとどまらず、社会的コスト及びCO<sub>2</sub>排出量削減にまで及んでいます。それでもまだ、地球環境保全のために自分たちがどれくらい役に立っているのかを自問自答し続けていきたいと思っています。

リサイクルトレーが地球のためにできること

### 2008年度に回収したトレーの数

## 約17億725万枚 / 6,829トン

発泡スチロールトレーの回収量の推移



1990年9月にエフピコがトレー・リサイクルを開始してから2009年3月で18年半になりますが、この間に回収された発泡スチロールトレーは約196億6,600万枚 / 7万8,664トンとなります。容積に置き換えると、東京ドームなら約12.9杯分になります。  
※東京ドームの容積は124万立方メートル

今までに削減した社会的コスト

## 約350億円

(ゴミ収集車約140万台)

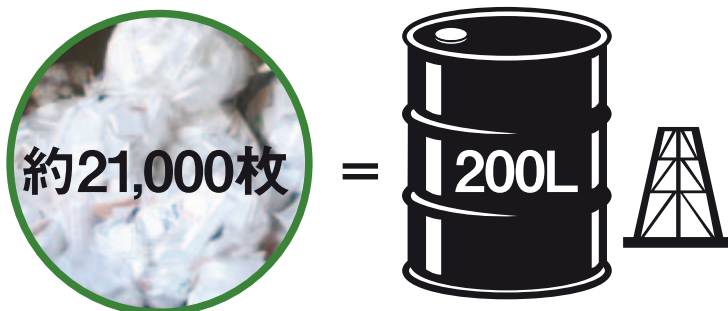
もし使用済みトレーが回収されずに家庭ゴミとして出された場合、ゴミ収集車で運んだとすれば約140万台分にも相当します。自治体にもよりますが、ゴミ収集車1台分の廃棄物を収集、運搬するための費用は約2万5千円。つまり、エフピコがリサイクルしてきたトレーを、ゴミとして処理しようとする、収集、運搬費用だけでも約350億円もの社会的コストがかかる計算になります。エフピコのトレー・リサイクルは単に環境のためだけでなく、行政のコスト削減にも効果があるのです。

※標準的なゴミ収集車(2トンクラス)の容積は、約4.6立方メートル。トレーをぎっしり押し込むと1立方メートルに約3千枚入るため、1台のゴミ収集車に約1万4千枚入る計算となります。

### 今までに節約した石油の量

## ドラム缶約94万本分

(約1億8,879万リットル)



18年半の間に回収されたトレーを石油に換算すると、約1億8,879万リットル(ドラム缶約94万本分)にも及びます。消費者の皆さん一人ひとりの協力が、大きな節約に繋がっているのです。

※発泡スチロールの原料となるポリスチレンを1,000kg作るには2,400Lの石油が必要です。これをドラム缶(200L入り)で換算しました。

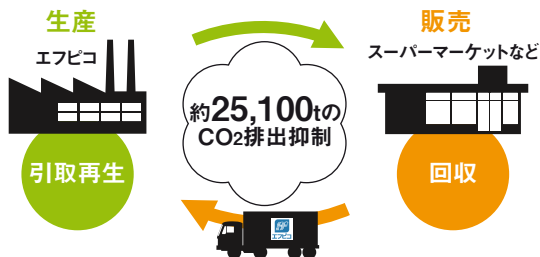


2008年度に削減したCO<sub>2</sub>の量

約2万5,100トン

エコトレーを使うことで2008年度年間約2万5,100tのCO<sub>2</sub>排出抑制効果

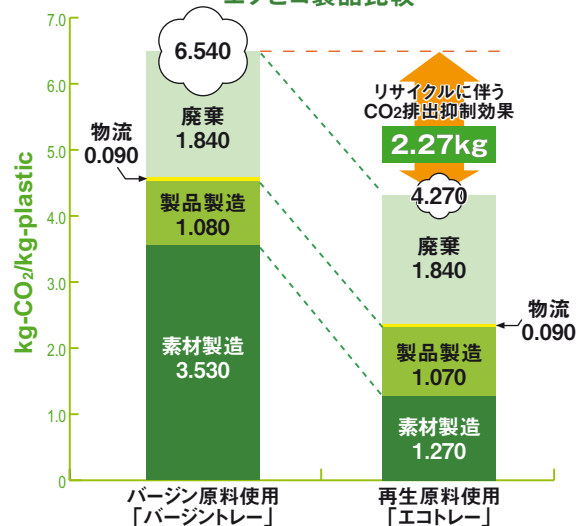
エコトレーを年間約1万1,041t販売(2008年度)



いま地球規模での環境問題で、もっとも深刻と言えるのが地球温暖化です。トレーをリサイクルすることにより、さまざまな形でCO<sub>2</sub>発生の抑制が可能になります。トレーをゴミとして出せば収集車が走行する分のCO<sub>2</sub>が発生しますし(回収の場合は納品した後の帰りのトラックに積んで行きます)、焼却され

エコトレーを1kg(約250枚)使うと約2.27kgのCO<sub>2</sub>排出抑制効果

エフピコ製品比較



※エコライフ基準をベースにした計算・検証結果

るはずだったトレーを減らせば焼却に伴って排出されるCO<sub>2</sub>の量も減らすことができます。また、バージントレー製造の場合と比較すると、原料となるペレット製造でもCO<sub>2</sub>の発生が少ないのです。

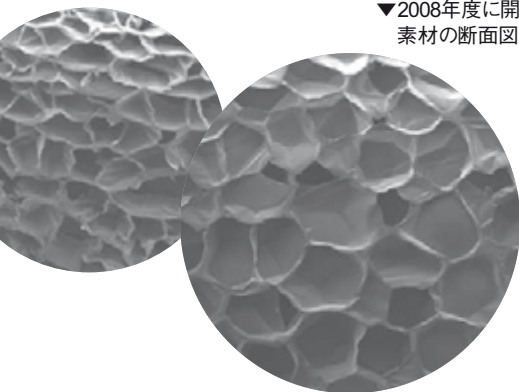
※文中のトレー枚数は1枚あたり約4gとして算出しています。

# 製品開発における取り組み

環境に負荷をかけない製品の開発は、  
経験と工夫と地道な努力の集大成から生まれます。

環境への負荷を低減することを目指した製品開発は、軽量化と機能の維持という2つの相反する要素のせめぎ合いです。容器を軽くしたり素材を薄くしたりしようとすればするほど原材料となる資源の量は減り、生産の途中で発生する廃棄物も減り、製品運送時のCO<sub>2</sub>も削減されます。しかし、そこで重要になってくるのは、容器本来の機能を維持することです。軽くしたり薄くしたりすることで製品の強度が弱くなってしまえば、容器としての機能を果たしません。エフピコの製品開発においては、「軽く」「薄く」「丈夫に」を常に配慮しています。

▼従来の素材の断面図



▼2008年度に開発された素材の断面図

2008年度に開発された新製品の数々。  
使われる用途によりさまざまな改良が加えられた製品が毎年、数百種類生み出されています。▶

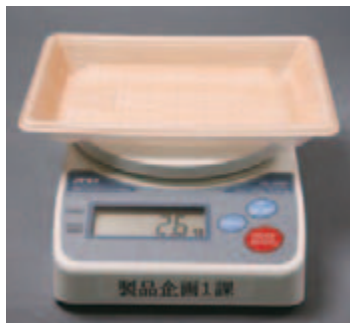
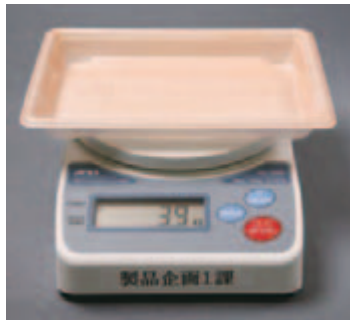
## 発泡倍率の高い素材の採用

今年度は従来の発泡倍率の低い素材から、高い素材への切り替えを重点的に行ってきました。発泡倍率が高い素材は「同じ容積でも軽い」という利点があります。発泡倍率の効率化による軽量化や薄肉化を補うため、金型や成形技術にさまざまな工夫を凝らしています。



形状と容積は同じでも  
軽量化されたトレー

薄くして軽量化するために、  
凹凸を付けて強度を高めた容器



## 薄肉化による軽量化

透明容器などの非発泡製品については、より薄い素材を採用することで軽量化を図っています。しかし、薄い素材で同じ強度を維持するための成形は非常に難しく、開発担当者の腕の見せどころでもあります。今度、小売店で透明容器を見たときに底や横の波形のデザインにも注目してみてください。そこには環境に対する配慮が形となって現れています。





製品開発部 製品企画2課  
チーフマネージャー

**廣末康弘**

成形の技術は、1ミリの10分の1の世界での金型作りなんです。凹型と凸型の細微な調整ですね。トレーの成形用の金型は数百種類にもおよびます。



製品開発部  
ジェネラルマネージャー

**三次雅照**

製品開発の段階において環境への配慮は常に意識しています。開発とは積み重ねですから、私たちの部署での環境対策は、日々進歩しています。



容器開発部(兼)製品開発部  
シニアマネージャー

**小川政則**

容器開発部は営業からの声を製品開発部に繋ぐ役割も持っています。こんなモノを作ってくれ、という声に1回で応えられた時は、部署を超えて社内全体が盛り上がりますよ。たいていは、やり直しの繰り返しですからね。



基礎技術研究室  
ジェネラルマネージャー

**猪原康正**

われわれが作っているのは食品容器ですから、原料の開発には、まず安全・安心です。環境への配慮は二の次と思われがちですが、実際には両方への配慮を同時に行っているという感じです。

**原料の開発と安全性の確保**

原料(ペレット)の開発、改良は継続して行っていますが、食品用容器を製造する企業として、エフピコでは製品の安全性確保に力をいれています。環境に配慮した製品づくりと並行して、消費者の方々に安全・安心をお届けするための研究も決して疎かにはしません。



# 工場における取り組み

工場における環境負荷低減の施策は、  
設備の改善と人的努力の2つの方向から行っています。

生産工場において環境負荷の低減を実現しようとするれば、おのずと生産性の効率化を目指すこととなります。ムダを省き、エネルギーロスの少ない生産工程にすることで、廃棄物やCO<sub>2</sub>の排出量を削減することができるからです。効率化は、設備の改善というメカニカルな側面からのアプローチとともに知恵を出し合うという現場スタッフの地道な努力の積み重ねからも押し進めています。大切なのは、改善しようという気持ちを常に持ち続けること、そして、気づいたことがあればそれを出し、皆で情報を共有することです。効率化のヒントは生産の現場にあります。



設備部 ジェネラルマネージャー  
**池本 孝**

長期的かつ計画的に行えば、設備への投資はエネルギー削減において必ず大きな実を結びますね。改善後の1ヵ月で改善前数ヵ月分のCO<sub>2</sub>削減もできる場合があります。



設備部  
**古中 達也**

ユーティリティのエネルギー削減計画の立案は現場サイドの数字を吟味することからスタートします。そして得られた数字を基に、予測と検証を経てベストな方法を導き出します。



生産管理部  
**定方 聡一**

生産本部長を中心に取り組んでいる具体策として「CO<sub>2</sub>削減プロジェクト」があります。これは現場でのアイデアを積み上げていく運動で、他の工場でも使えそうなアイデアは横展開しています。

▲効率化とオートメーション化が進む生産工場内

- 左上：次々と作り出される食品容器
- 右上：段ボール箱に詰められた製品はコンベアで隣の部屋へ
- 右下：アームロボットできれいに積み立てられていく段ボール箱





### リニューアルによる関東工場省エネ効果合計

省エネ効果 : 257kL/年(原油換算)  
CO<sub>2</sub>削減効果 : 380t/年

#### 冷却水設備系統統合による省エネ

- 生産設備および空調設備の冷却水設備系統を集約し高効率なターボ冷凍機の導入を実現。
- ポンプの台数を減らし、搬送動力を削減。

省エネ効果 : 79kL/年(原油換算)  
CO<sub>2</sub>削減効果 : 119t/年

#### 省エネベルト導入による省エネ

- 空調機(エアハンドリングユニット)のファンと電動機を結び駆動用ベルトに省エネ仕様のベルト(省エネベルト)を導入。

省エネ効果 : 2kL/年(原油換算)  
CO<sub>2</sub>削減効果 : 3t/年

#### 監視装置の更新による見える化の促進

- 監視装置を更新するとともに、電力量計、流量計等の計器を各所に設置し、エネルギー使用状況の見える化を促進。

#### 空気圧縮機設備の最適制御による省エネ

- インバータ制御の空気圧縮機と、末端圧力を基準とした台数制御を組み合わせ、エア使用状況に合わせた最適な運転を実現。

省エネ効果 : 108kL/年(原油換算)  
CO<sub>2</sub>削減効果 : 159t/年

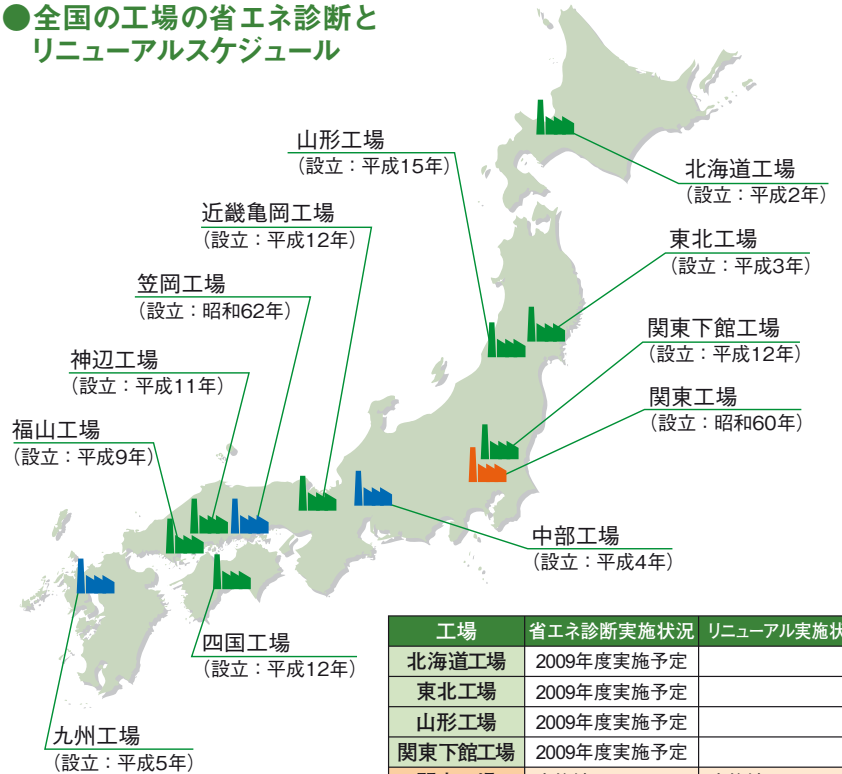
#### ポンプ、ファンのインバータ化による省エネ

- ポンプ4台、ファン2台の電源供給回路にインバータを設置。ポンプ、ファンの回転数を適切に制御することで、消費電力を削減。

省エネ効果 : 68kL/年(原油換算)  
CO<sub>2</sub>削減効果 : 99t/年

※省エネ効果、CO<sub>2</sub>削減効果の数値は計画値  
(CO<sub>2</sub>排出係数: 0.368t/MWh)

### ●全国の工場の省エネ診断とリニューアルスケジュール



工場	省エネ診断実施状況	リニューアル実施状況
北海道工場	2009年度実施予定	
東北工場	2009年度実施予定	
山形工場	2009年度実施予定	
関東下館工場	2009年度実施予定	
関東工場	実施済み	実施済み
中部工場	実施済み	2009年度実施予定
近畿亀岡工場	2009年度実施予定	
笠岡工場	実施済み	2009年度実施予定
神辺工場	2009年度実施予定	
福岡工場	2009年度実施予定	
四国工場	2009年度実施予定	
九州工場	実施済み	2009年度実施予定

### 10年ごとの設備リニューアル

洗浄用や冷却用の水、噴出用のエア、空調、真空、蓄熱など工場を動かす様々なユーティリティは全て電気で動かしています。そこでエフピコでは、電気設備を中心とする工場設備の省エネ診断を随時実施し、老朽化した設備をおよそ10年ごとにリニューアルしています。リニューアルの際にはさまざまな側面からシステムの見直しを行います。動力のインバータ化、蓄熱の活用、エアダクトの配置変換、水冷と空冷の選択など、それまで効率化が見込められていた個所に工夫を加えることにより、大規模な省エネ効果が実現可能となります。

また設備に限らず、施設のレイアウトを変えたり、壁や屋根をリニューアルすることで実現できる環境負荷低減もあります。効果が見込めることはすべて診断の対象となります。



中部工場



関東下館工場

# 工場における取り組み



## 「CO<sub>2</sub>削減プロジェクト」の推進

このプロジェクトは現場からの提案をベースに推し進めている運動です。まず最初に作業とその成果の「見える化」を行いました。例えば、「このコンプレッサーを8時間稼働させるための電力は〇〇Kw、発生する熱量は△△カロリーでCO<sub>2</sub>は□□トン、電力代は◇◇円」というように、積算電力計を設置して作業者にわかりやすく数値化することで、さまざまな効果が生まれます。

ひとつには、省エネに対する意識が高くなります。何十分機械を止めれば、何トンのCO<sub>2</sub>削減になるかが頭に思い浮かべば、節電へのモチベーションも上がります。もっと直接的な効果は「見える化」のためのメーターを付けたことで、エアの漏れをすぐに発見できたなどということです。そして、ひとつの工場で有効と証明されたアイデアは全国の工場へと伝達され、エフピコの生産工程全体のCO<sub>2</sub>削減アイデアとして活かされるのです。

「見える化」からスタートしたさまざまな削減施策は、これからも継続的に実施していきます。



生産本部 統括工場長  
**田井秀明**

私たちが取り組んでいる施策はマネジメントシステムが基本ですから、常にスパイラル的に改善していかなければなりません。終わりがありません。改善の余地は必ず見つかるものですよ。



神辺工場 工場長  
**木坂典浩**

班長、部門長に提案を上げて無駄、ロスを無くしていく。まずとりあえずやってから考える。月1回は「ものづくり会議」を行っています。



神辺工場  
**有本 公博**

改善案が浮かんだらすぐに伝えて欲しいといつも言っています。ひとつの道具を取りにくいというような単純な動作でも改善点はあるもので、そこから大きな改善へと繋がることもありますから。



生産本部 マネージャー  
**藤井博義**

エフピコでは工場ごとの評価を年に2回行っています。生産性が評価の主な柱ですが、省エネなど環境負荷に関する項目も含まれています。高い評価の工場にはご褒美もあります。



写真左：現場では3Sに2つプラスした5Sを推し進めています。整理、整頓、清掃、しつけ、習慣の5つのSにより効率、省エネ、安全などを目指しています。

写真中：現場でのコミュニケーションはとても大切です。同僚や上司に話をしやすい環境があればこそ、さまざまな提言が吸い上げられるからです。

写真右：効率化に繋がることや省エネに繋がることはすべてやってみるのがエフピコ流です。試行錯誤の途中で、新たなアイデアが出ることもあります。

## 「ものづくりプロジェクト」の推進

「ものづくりプロジェクト」は直接的な環境負荷低減のための運動ではありませんが、品質の良い製品づくりを目指すことからの派生効果により、省エネなどにも大きく貢献しています。具体的には製品に対するクレーム数の削減と生産性の向上を目標に設定し、すべての生産工程が正しく効率的に行われることを目指しています。

4月と10月に全国の工場が集まっての成果発表会も開催され、各工場での成果報告が行われます。この発表会は2008年で5回目になりますが、過去4年間の積み重ねもあり、非常に充実した内容の発表会となりました。



## ISO9001認証取得

お客さまや消費者の方々に安心してご使用いただける製品をお届けするために、品質マネジメントの国際規格である「ISO9001」の認証を笠岡、関東下館、近畿亀岡の3工場で取得しています。ISOの規格を業務に取り入れることで、工場内での責任・権限の明確化、業務の標準化、教育・訓練内容の充実、生産技術の向上、従業員のモチベーション向上といった効果が生まれています。こうした効果は安心できる製品の生産だけでなく、効率化による環境負荷低減にも役立っています。

### 品質方針ならびに品質目標(笠岡工場)

#### ●品質方針

**より良い製品で高い信頼、顧客のニーズを満たす製品を提供する。**

本方針を維持・継続・実行する為に私達は下記の事項を確立します。

1. お客様の要望を的確に捉え、対応できる品質マネジメントシステムを構築し、推進・維持・確立する為の経営資源を投入する。
2. 本方針の推進のために、具体的な品質目標を定める。
3. 食品衛生法等の関連法規を遵守する。
4. 市場の変容、当工場の改革等にあわせて本方針を定期的に見直し、適切性を持続すると共に、品質マネジメントシステムの有効性の継続的な改善を行う。
5. 本方針を全従業員に理解させる為にあらゆるコミュニケーションの場を通じて周知・徹底を行う。

平成16年9月15日 株式会社エフピコ 笠岡工場  
経営者 田井 秀明

#### ●2009年度品質目標

##### 48期 工場品質目標

- ①クレーム削減(目標:PSP 40ppb / 即成・成型 30ppb / 押出 0ppb)
- ②生産性向上

##### 48期 部署品質目標

- PSP課** ①47期実績 51ppbに対し20%削減 ⇒ 40ppb  
②稼働率アップ(正味稼働率) ⇒ 81.33%

- PS課** ①クレーム発生率(成形 30ppb以下(11件以内) / 押出 0ppb)  
②時間当りの生産性アップ  
・PS-2: 803st / h・ 昨対 2.3%アップ  
・PS-7即成: 899st / h・ 昨対 2.6%アップ  
・PS-7押出: 940kg / h・ 昨対 9.3%アップ

# 物流における取り組み

エフピコの物流システムは、在庫と配送における徹底した計画性があります。ムダの排除がCO<sub>2</sub>の削減にダイレクトに結びついています。

毎日の食卓に届けられる食品は流通のサイクルが短く、配送も短時間で  
行わなければなりません。食品の包装に使われる容器も、当然のことながら、  
短時間で受注と納品が繰り返されます。こうした時間勝負の物流において、  
効率的に工場から倉庫へ、倉庫から売り場へと製品を届けることにエフピ  
コは徹底した計画性をもって取り組んでいます。生産拠点や物流拠点と  
納品先となる売り場を結ぶルートが短ければ短いほど、また運ぶト  
ラックの台数が少なければ少ないほど、ムダなCO<sub>2</sub>を排出せずに製品を配  
送したことになります。

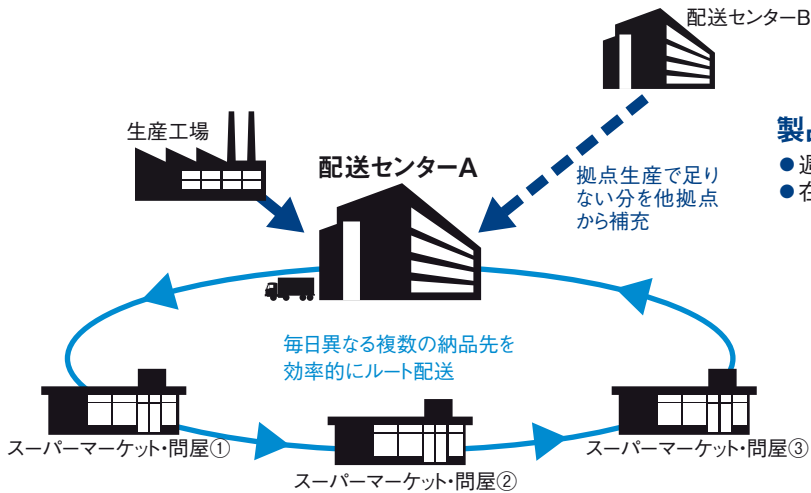
さらに製品の配送後、荷台がカラになったトラックに使用済みトレイを積  
んで帰れば、一石二鳥の効果があります。より計画的に、より効率的に。  
エフピコの物流システムは日々進化しています。



出荷を待つ東日本ハブセンターに集められた製品。  
食品容器は軽量なため、倉庫のスペースを有効  
活用して高く積み重ねられます。

●製品配送のしくみ

SCM部門による生産工場から配送センターまでの製品引取計画と物流部門による配送センターから納品先までの納品計画により、日々異なる種類と量そして納品先への製品配送が効率的に行われています。



製品の生産と在庫管理を計画 (SCM部門)

- 週次サイクルの計画立案で需要変動に俊敏に対応
- 在庫基準に基づいた生産計画の立案

製品の納品と配車を計画 (物流部門)

- 積載率、配送効率、帰り便の有効活用、空車距離減などを考慮し最善の配車計画を策定
- 積載量を最大に、トラックの台数を最小に、走行距離を最短に計画



生産企画部  
ジェネラルマネージャー

永田幹治

工場と配送センターをペアと考えると、日本全国における拠点エリアは8つです。生産から納品までを同じエリアで完結できれば完璧で、製品の移動距離は小さい。6年前にSCMがスタートしてからは、いつも理想との戦いですね。



SCM企画部 販売計画課  
チーフマネージャー

松岡淳司

全国12の工場すべてで全種類の製品を作っているわけではありません、各種類の在庫数も日々変化しています。何をいくつどこで作って、何をどこからいくつ補充すべきかなどの計画は非常に複雑なんです。



エフピコ物流(株)  
セクションマネージャー

内藤康博

製品を配送するのは動脈物流、静脈物流はリサイクルする使用済みトリーの回収。お客様の協力も得ながら、この2つのルートを大幅に見直す試みに今、着手しています。これが実現すると、かなりの効率化が可能となります。



エフピコ物流(株)  
取締役マネージャー

前石義信

配送の計画はコンピューターソフトを使って行いますが、最終的な判断は人が行います。さらには、最も効率的な配送をするために、お客様の納品条件を営業部門と連携して調整することもあります。

施設拡充による効率化

2008年度は北海道に配送センター、九州に工場併設倉庫を増設、西宮には中継基地となる使用済みトリーの選別センターを開設しました。消費地に近い配送拠点は、さらなる効率化と環境負荷低減をもたらします。

◎西宮の選別センターは、近畿圏で回収した使用済みトリーを集約・選別・減容し、効率的に福山に運ぶ上での中継基地となります。その効果は年間延べ1200台のトラック削減となります。

◎北海道配送センターの倉庫では、移動ラックに連動通路照明システムを採用。通路開閉に連動し、開いている通路のみ点灯する省エネ化を図っています。



北海道配送センターの移動ラック

環境配慮型経営によるCO2削減

①「エフピコ物流協会」会員各社による環境配慮型経営の推進

全国23の物流企業で組織されている「エフピコ物流協会」では、各社がマネジメント認証の取得に取り組んでいます。現在のところ、ISO14001認証が1社、ISO9001認証が2社、グリーン経営認証が5社取得済み。そして、4社が新たな認証の取得を目指しています。

②エコドライブ10か条

エフピコ物流では全てのドライバーを対象に、「エコドライブ10か条」運動を展開しています。各自の燃費を発表するなどして、ドライバーの環境意識向上に努めています。



# オフィスにおける取り組み

食品トレーのリサイクルを実践している企業として、  
オフィスでの環境対策意識は高いと自負しています。

現在のように多くの企業が地球環境保全への取り組みを本格化させる以前から、エフピコの従業員はオフィスにおける環境負荷低減に対して高い意識を持っていました。1990年にトレーのリサイクルをスタートさせてからというもの、拡大生産者責任を果たす企業の一員としての自覚が自然と芽生えていった結果だと思えます。環境保全に関する活動に近道はありません。「できることは何でもやろう」という考えと「どんなことでもコツコツと継続しよう」という気持ちを糧に、2008年度もさまざまな運動を展開してきました。



## 環境負荷の「見える化」①

生産現場で実践しているユーティリティ（工場を動かすさまざまな動力源）の「見える化」と同様、オフィスでもさまざまな環境負荷の「見える化」を行っています。

## テレビ会議システムの活用②

全国に工場、配送センター、営業拠点、リサイクル工場を配置したエフピコでは、テレビ会議システムを使った遠隔会議が行われています。会議出席者の出張による移動がなくなることで、CO<sub>2</sub>排出削減に寄与しています。

## 低公害車の導入③

数年前からハイブリッドカーを導入しているほか、いわゆる4つ星車と呼ばれる国土交通大臣認定車（低公害車）の導入も行っています。さらに2008年度からは業務に差し支えない用途の場合、燃費の良い小型車も積極的に取り入れています。これは、エフピコが所有する全303台のうち32%になります。

内訳：ハイブリッドカー 46台  
低公害車40台  
軽自動車及び小型車13台

## 小さいゴミ箱④

一部のオフィスでは廃棄物の削減を目指した取り組みとして、各自のデスク用として小さなゴミ箱を配布しました。大きい紙ゴミを出さないようにする気持ちが芽生え、紙ゴミの総量は減少しています。このアイデアは、他のオフィスでも実践する予定です。

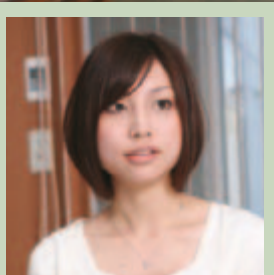
## モバイル給与

2008年度より給与明細を電子化してメールで送信するシステムを導入しました。可能な限り紙の使用を減らそうという取り組みのひとつです。



総務部 マネージャー  
**堀 清司**

エフピコは各自のパソコンで閲覧できるデジタルな掲示板があり、そこで「見える化」の数字を全従業員に開示しています。今後は複合機のカウントや社用車の燃費などを掲示していきます。優秀な数字を達成した部署や個人への表彰制度も検討します。



総務部  
**広田美由紀**

「見える化」を推進めるためのアイデアをもっと考えたいです。標語を募集したり、運動のアイコンをデザインしたりとか…。オフィスでの環境対策で一番大切なのは、従業員ひとりひとりの意識づけです。



情報システム部 情報推進課  
マネージャー  
**鳥本浩昭**

一昨年から、ブレードサーバや省電力対応PC等のグリーンIT製品の導入を積極的に進めています。「モバイル給与」をはじめ、今後もCO<sub>2</sub>削減や環境に配慮したシステム化を更に推進していきます。



SCM企画部 販売計画課  
マネージャー  
**渡邊 徹**

従業員の環境意識をより高める手法の一つとして、既に導入している「eラーニング」システムが活用できると思います。さまざまな知識を効率良く学習できる利点を生かし、従業員全員が常により高い知識・意識を取得し続けることで、継続して環境負荷低減に取り組めるのではないのでしょうか。

## 福山本社の太陽光(発電・採光)パネル設置 ⑤⑥

社員食堂の屋根部分には24枚の太陽光発電パネルが設置され、発電された電気は社内でも活用されています。パネルは半透明となっており、部屋内から見上げると採光窓として明るい太陽光を取り入れる役目も果たしています。また、食堂の隣は従業員が利用できるウッドデッキと花壇を配したリラックススペースとなっており、太陽の光と海からの風を楽しめる天然の冷暖房システムを提供しています。

## 休憩時間の消灯

人がいなくなるランチタイムの1時間は、オフィスの照明機器も休憩する時間として消灯しています。

## パソコンの省エネモード設定

すべての従業員が各自のパソコンを省電力モードで使うよう、その設定方法の情報を通達し、設定の変更を指導しています。全従業員による小さな気遣いで大きな効果を目指しています。

## 環境セミナーの開催

年に2回、丸1日をかけて東京と福山で環境関連研修会を実施しています。外部から講師をお招きして実施するこの研修会には、多くの従業員が参加しています。

## エコドライブ講習会

2008年9月に日本自動車連盟(JAF)から講師をお招きし、テレビ会議システムを使ってエコドライブの講習会を実施しました。また、各車にエコドライブを喚起するシールを貼っています。

## パソコンリサイクル

エフピコ全社で使っているパソコンはシステム部が一括で管理しています。古くなったものも1ヵ所に集められ、確実にリサイクル業者へと渡しています。

## グリーン購入

事務用品・備品関係や衛生用紙など、環境負荷が小さい商品やサービスを積極的に購入・利用しています。

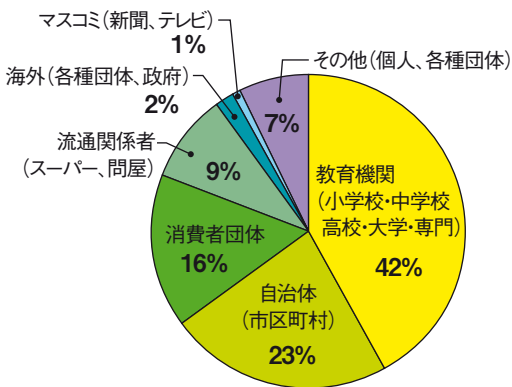
# 工場見学の受け入れ

エフピコのリサイクル工場を見学した方々は一様に驚きの声を上げます。今まで捨てられていたモノがリサイクルされる様子は、一種の神秘的な光景でもあります。

エフピコ方式のリサイクルに限らず、一般的にリサイクルを理解する上で、工場の見学は非常に有意義であると考えます。使用済みトレーが工場に運ばれるまでには、さまざまな方々の協力が必要ですが、リサイクル運動を推し進めようという人の気持ちがあつてモノが生まれ変わる様子を目の前で見ると、感慨深いものがあります。消費者の方々に協力いただいて展開するこれほど大規模なリサイクルは、世界中どこを探してもありません。海外からの見学者は皆一様に驚きます。「なぜこんなことが可能なか…」という感想を漏らすのです。世界でも類を見ないリサイクル運動を展開している企業であることに、エフピコは大きな誇りと責任を感じています。

## 見学者の内訳

見学に来られる方は多岐にわたっており、見学の目的もさまざまです。小学生なら身近な環境問題のテーマやモノを大切にすることを学ぶために、自治体ならリサイクル運動を推進するヒントを探して見学にいらっしゃいます。食品トレーに厳しい目を持つ消費者団体の方々でも、見学後はリサイクルの現状に感心され、応援のお言葉をいただくこともあります。テレビの取材も年に数回はありますが、テレビの画面を通して見るよりも、ぜひ実際に工場に来てご自身の目でご覧いただきたいと思っております。



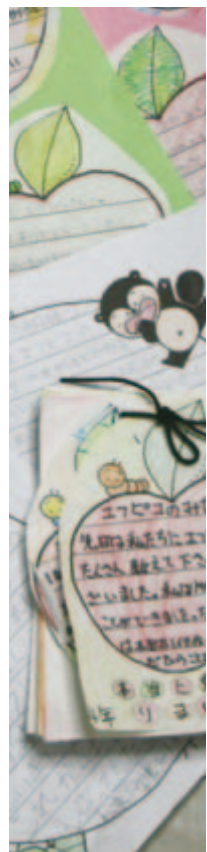
環境対策室 ジェネラルマネージャー  
**松尾和則**

見学にいらっしゃる方は口コミが多いです。多い年は2万人を超えますが、私たちとしてはもっとたくさんの方々に来て欲しいんです。見学者が増えた場合の対応も考えていますから、お待ちしておりますので、どうぞお越しください。



環境対策室  
**心石圭子**

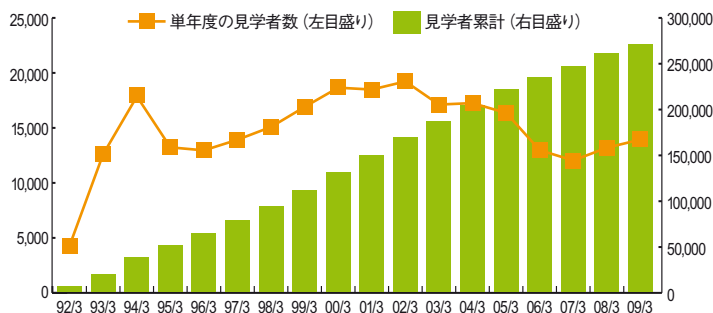
ほとんど休みなく1日に4組くらいの見学者をお迎えしたいと思っています。同じ小学生でも学校によって子供たちの反応が違ったり、学年によって質問が違ったりと、逆に学ぶことも多いです。大変ですけど、楽しい仕事ですよ。



## 見学者数

1年の平均は約1万5千人、累計では27万人を超えました。多いようにも思えますが、私たちは決して満足していません。より多くの方々に食品トレーのリサイクル現場を見ていただき、リサイクルするトレーの数を増やしていきたいと考えます。

## 見学者数の推移



工場見学の案内チラシ





写真上：見学後に送られてきた小学生からのメッセージ。リサイクルへの興味が深まった気持ちが表示されています。

写真右上：クラス単位で見学した小学生が作った壁新聞。学校で発表した後に送ってくれました。

写真右：プレゼンテーションに耳を傾ける小学生。食品トレーという身近なモノがテーマであるせいか、子供たちは熱心に話を聞いてくれます。



## 工場見学のご希望は、各工場にお問い合わせください。

見学受入日時：月～金（祝日を除く）9:00～16:00（各工場共通）

工場名	所在地	見学受付	1団体あたり 最大受入人数
東北リサイクル工場	〒981-3601 <small>おおひら</small> 宮城県黒川郡大衡村平場23-124	管理課 022-345-1146	40名
関東リサイクル工場	〒300-3561 茨城県結城郡八千代町大字平塚4448	東京本社秘書室 03-5325-7300	120名
中部リサイクル工場	〒503-0205 <small>しものおくれ</small> 岐阜県安八郡輪之内町下大樽157-1	管理課 0584-69-2985	120名
福山リサイクル工場	〒721-0956 広島県福山市箕沖町127-2	本社秘書室 084-953-0001	130名
九州リサイクル工場	〒842-0102 <small>いしなり</small> 佐賀県神埼郡吉野ヶ里町石動1800-1	管理課 0952-52-7877	50名

### 見学プログラムの一例

- 1. リサイクルの流れの説明(10分)**  
工場のエントランスで食品トレーがリサイクルされるまでの流れを説明します。
- 2. リサイクル工程の見学(30分)**  
トレーが運ばれてくるところからベレット（トレーの材料）になるまでをご覧ください。
- 3. プレゼンテーション(25分)**  
エフピコが行っている食品トレーのリサイクル事業を詳しく説明します。
- 4. 説明ビデオ(15分)**  
プレゼンテーションで説明した内容をまとめたビデオをご覧ください。
- 5. 質問タイム(10分)**  
見学者からのさまざまな質問にお答えします。  
(計：約90分)

# 5カ年計画の進捗状況

私たちエフピコの活動が自然環境に与える影響は、残念ながら良いものばかりではありません。私たちは、自らの活動が自然環境に負荷を与えていることを正しく認識するとともに、自ら目標を定め、環境負荷低減のための取り組みを立案・実行しています。

テーマ		取り組み方法		目標(達成年2010年度)
1. 地球温暖化防止	①エネルギー及び資源の削減(INPUT)	温室効果ガス排出量削減	製造部門	エネルギー原単位30%削減(原単位: Wh/枚)
			運輸部門	燃料消費量原単位40%削減(原単位: L/1000枚)
			オフィス部門	電気使用量20%削減/室温調整: 夏25 ~ 28℃ 冬20 ~ 23℃)
		京都メカニズムへの取り組み		京都メカニズム活用方法検討(CDM.JI国内排出権取引)
		新エネルギーへの取り組み		新エネルギー導入検討
		製品の省資源化		資源使用量原単位15%削減(原単位: 投入資源重量/枚(ウッド製品除く))
		エフピコ方式の拡大		KHCW(回収白ペレット): 25%増、エコトレー販売重量(エコKT反: 15%増)
	②廃棄物・環境汚染物質削減(OUTPUT)	環境汚染物質類	大気汚染管理(SOx, NOx)	ボイラー/ISOx, NOxの現状排出レベル(法規制値以下)の維持 発電機/1基当たりのSOx排出量, NOx排出量は導入時の排出測定値を維持
			水質汚染管理(COD, BOD)	リサイクル5工場のCOD, BODの現状排出レベル(法規制値以下)の維持
			化学物質管理(PRTR, VOC)	PRTR: 対象物質の項目及び量の把握 VOC: 法規制には該当しないが自主規制で30%削減
		廃棄物類	廃棄物類 オフィスの3R推進	紙使用量55%削減
				事業系廃棄物10%削減
				リサイクル率80%以上へ
			工場の3R推進	ゼロエミッション: 産業廃棄物総発生量20%削減
産業廃棄物の削減・管理	最終処分量(単純焼却、埋立て)/総発生量=5%以下			
2. 製品の環境負荷低減の研究開発	新技術開発	軽量化・薄肉化実現に向けた生産技術の研究・開発		
	環境負荷の少ない製品設計	軽量化、単一素材化、非発泡→発泡体への変更の研究・開発		
	新素材開発	バイオマスプラスチック(PLA等)の研究開発等		
3. グリーン購入	グリーン購入指針作成	グリーン購入率60%		
	低公害車	低燃費車100台導入/ガソリン燃費効率アップ		
4. 環境に対する社員の意識向上	環境マネジメント	ISO14001のEMS手法に沿った活動		
	環境教育	環境教育: 2回/年		
	社会貢献	継続実施		
	社内広報活動	継続実施		
5. 環境・社会活動情報のステークホルダーとの共有化	コミュニケーションの強化	ステークホルダー別環境情報の発信と共有化		



「評価」欄 凡例

- ◎ = 目標を上回る成果
- = ほぼ目標通り達成 (達成率90～110%)
- × = 目標未達

基準年度	2008年度目標	2008年度成果	評価	関連項目
2003	25%削減	27%削減	◎	P31
2004	37%削減	評価方法を見直し中	-	P35
2004	18%削減	12%削減	×	P37
	継続実施	継続実施中	○	-
	継続実施	継続実施中	○	-
2003	18%削減	22%削減	◎	P29
2004	KHCW：20%増、KT反：5%減まで増	KHCW：7%増、KT反：17%減	×	P23
2005	法規制値以下を維持	法規制値以下を確認	○	-
設置年	休止に伴い目標削除	-	-	-
	法規制値以下を維持	法規制値以下を確認	○	P43
	アイテム数・量の把握	把握実施	○	P43
2000	VOC8%削減、インキ水性化10%	水性化1%	×	-
2004	52%削減	55%削減	◎	P37
2007	3%削減	6% UP	×	P37
	70%以上へ	57%	×	P37
2004	16%削減	18%削減	◎	P31
2004	10%以下	最終処分量について定義見直し中	-	-
	継続実施	軽量化実施 725アイテム	○	P29
	継続実施	発泡体へ切り替え 5アイテム	○	P29
	継続実施	継続実施中	○	-
	57%以上	44%	×	P38
	11台導入(期末80台)	30台導入(期末99台)	◎	P37
	継続実施	継続実施中	○	P18
	継続実施	継続実施中	○	P38・P53
	継続実施	継続実施中	○	P55
	継続実施	継続実施中	○	P38・P53
	継続実施	継続実施中	○	P39・P47・P48

2008年度の進捗状況及び成果について

2008年度は新たにスタートした環境経営新中期計画(エフピコ・エコアクション50)に基づく目標の策定作業と並行して、現行の5ヵ年計画の運用管理を実施しました。それぞれの単年度目標に向けて各部門が取り組みを実施した結果、多くの目標項目で達成することができました。特に当社の温室効果ガス排出において大きな割合を占める食品容器生産工場で使用される電力量については、基準年(2003年度)と比較して原単位管理で27%の削減をすることができました。

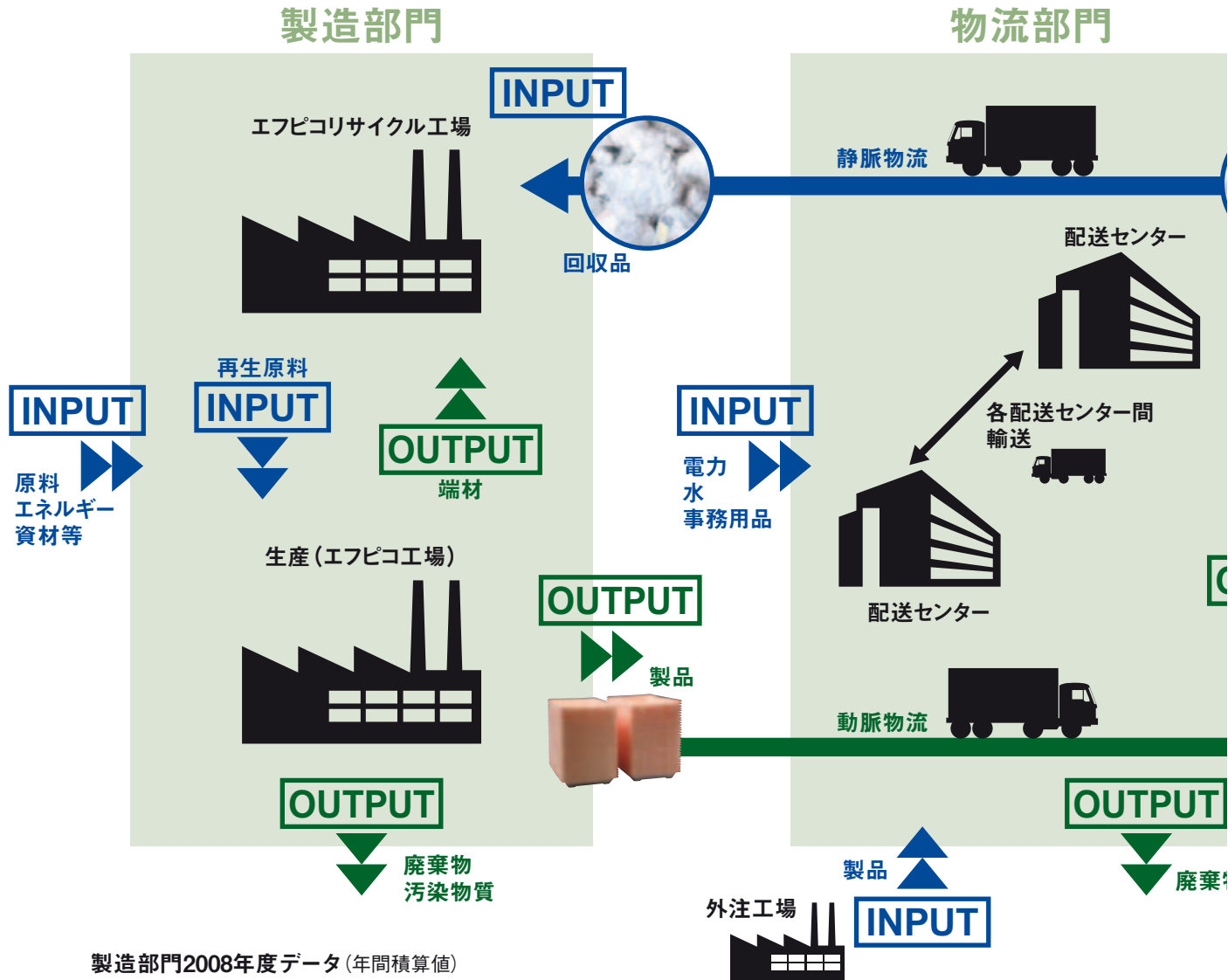
また、省資源化に向けた容器1枚当たりの資源使用量、主にオフィスで使用する紙類の使用量、営業車の低燃費車への変換については2010年度の目標を前倒しで達成しました。

一方、オフィスでの電力量、オフィスの事業系一般廃棄物の排出量、リサイクル率の向上等で目標見達の結果となった項目もありました。

来年度からは、環境経営新中期計画(エフピコ・エコアクション50)で策定する目標項目の進捗状況についての報告を致します。

# 2008年度物質の流れ

企業活動に伴い、さまざまな物質の移動や、環境への影響が発生します。私たちエフピコは、自然環境への負荷を可能な限り低減・抑制するために、自らの企業活動が生み出した環境への影響を、正確に把握することに務めています。

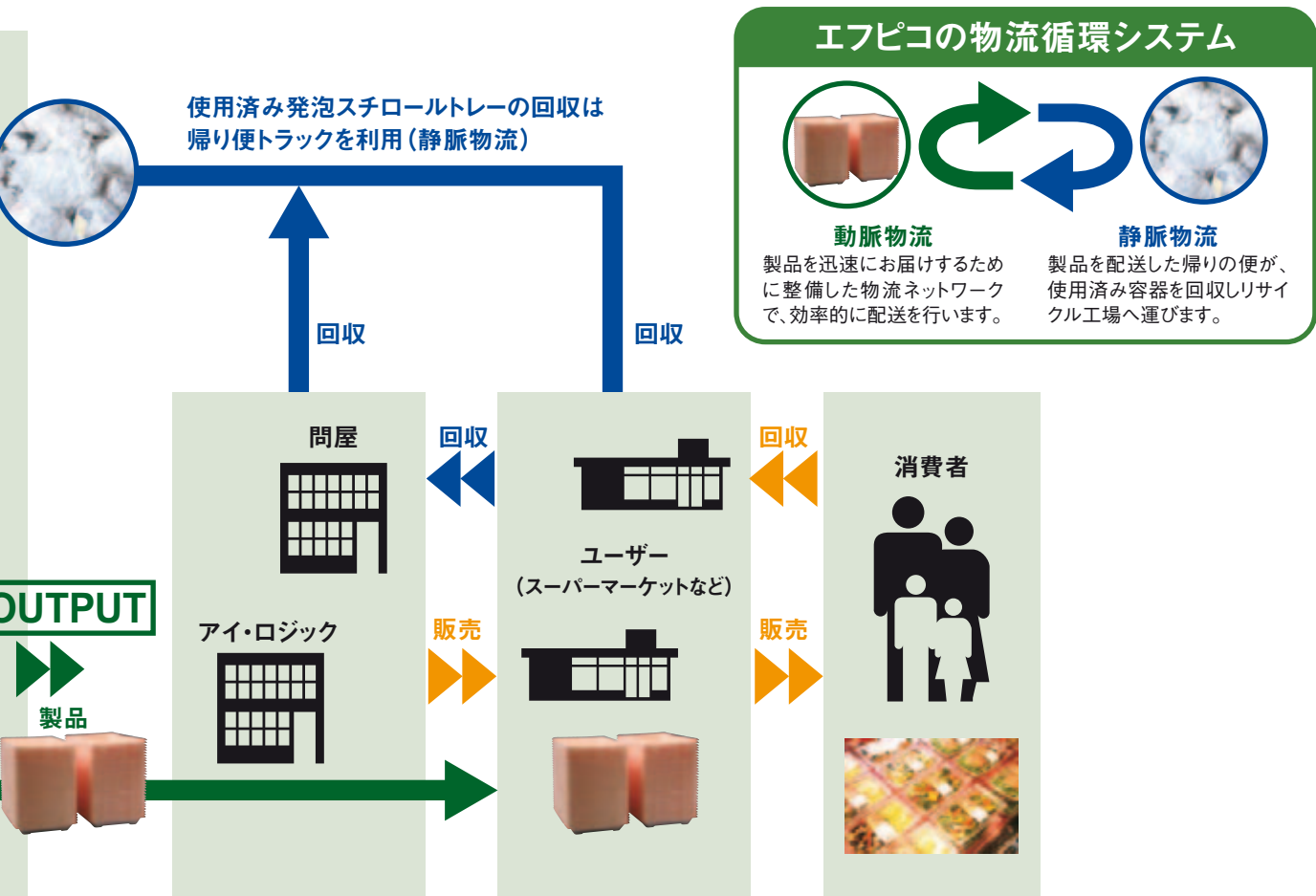


製造部門2008年度データ(年間積算値)

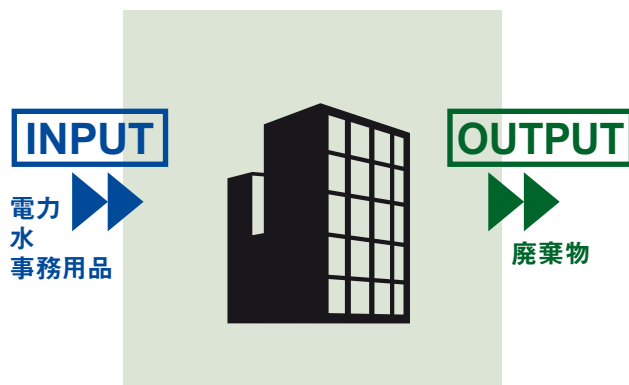
INPUT	エネルギー	
	電力	172,841,239 kWh
	化石エネルギー	16,933,665 MJ
	水資源 (合計554,556m <sup>3</sup> )	
	上水	125,051 m <sup>3</sup>
	地下水	359,180 m <sup>3</sup>
	工業用水	70,325 m <sup>3</sup>
	原料(樹脂類他)	
		148,638 t
	副資材 (合計24,452t)	
段ボール	22,277 t	
包装ボリ	2,175 t	
その他		
潤滑油	13,630 L	
シンナー	4,479 L	
紙	2,192,600 枚	
OUTPUT	製品	製品生産重量 (内、エコレー生産重量) 127,862 t (11,615) t
	出荷トラック台数	107,113 台
	廃棄物	
		4,393 t
	煤塵	53 kg
	NOx	926 kg
	DXN類	0 mg-TEQ
	環境汚染物質	
BOD	220 kg	
COD	160 kg	
SS	501 kg	

物流部門2008年度データ(年間積算値)

INPUT		
エネルギー		電力 11,327,268 kWh
	化石エネルギー	6,681,838 MJ
水資源		上水 15,803 m <sup>3</sup>
	副資材	段ボール 1,472 t
	その他	紙 9,916,900 枚
OUTPUT		
廃棄物		292 t



## オフィス部門



オフィス部門2008年度データ（年間積算値）

INPUT		
エネルギー	電力	2,071,152 kWh
副資材	段ボール	1 t
その他	紙	6,772,500 枚
OUTPUT		
廃棄物		89 t



# 社会における取り組み

ステークホルダーのみならず、どこかで繋がっている人々のため、エフピコが企業市民として行っていることをご説明します。



茨城県の生産工場で働く障がい者と神奈川県で買い物をする消費者をつなぐエフピコも、このCSRレポートをご覧の皆様とどこかでつながっているのかもしれない。





代表取締役副社長  
**佐藤 守正**

(2009年6月26日 代表取締役社長就任)

## 「つなぐ企業」として社会との絆を求めて

企業はいったい誰のものかという問いかけは非常に大切だと思っています。われわれの会社にしても、決して株主だけのものでも、お客様のものでも、従業員のものでもありません。企業は社会全体のインフラの上に存在していて、そこで生活する人々に支えられていることを考えれば、企業が社会のものであるという考えに行き着くはずで

社会に生かしていただいているエフピコが、それに対して恩返しをするのは当然だと思います。リサイクル事業でCO2の削減を行っています。これも企業市民としては当然のことでしょう。障がい者の雇用、小学校への出前講座、さまざまな地域のイベントへの協賛など、エフピコとして出来るようなことは無理のない範囲でやらせていただいています。

従業員とは情報の共有を進めて横の繋がりを深め、株主の方々には透明性を高めていく。

全てのステークホルダーとともに社会のなかで生きていくこと、そして共に発展していくこと。それが企業としての理想の形だと思います。



### TOPICS

#### 障害者雇用優良企業認証を受けました

この認証は、社団法人全国重度障害者雇用事業所協会が発行するもので、障がい者就労支援に関して特に優れた取組みを行う企業に与えられるものです。障がい者雇用のリーディングカンパニーとしての誇りと責任を持って、心のバリアフリー社会の実現に寄与していきたいと思



障害者雇用優良企業  
厚生労働省 2012



株主とのかかわり  
» P47



消費者とのかかわり  
» P48



障がい者の雇用  
» P49



お客様とのかかわり  
» P51



従業員とのかかわり  
» P53



地域とのかかわり  
» P55

# 株主とのかかわり

株主・投資家の皆さまからの信頼にお応えするため、会社情報の開示と経営の透明性の確保を通じ、株主・投資家とのコミュニケーションの充実に努めています。

## 適正な情報開示

エフピコは、常に法令を遵守しながら適時・適正・迅速・公平に企業情報を開示し、株主・投資家の皆さまと積極的な意見交換を行っています。機関投資家やアナリストに対しては、株主総会や年2回の決算説明会以外にも、個別ミーティングや生産・物流・リサイクル施設見学会などを実施し、業績や事業内容をより理解していただけるよう努めています。株主以外のステークホルダーに対しても、有価証券報告書・決算短信・決算説明会資料・プレスリリースなどをホームページのIRコーナーで開示しています。



## 経営の健全性と、企業価値の拡大

エフピコは2009年3月期に、目標としておりました経営指標の1株あたり利益250円、自己資本純利益率(ROE)10%を達成しました。新たな中長期目標を1株あたり利益400円、自己資本純利益率(ROE)を15%として、既存事業の再編や効率化、グループ経営計画の諸施策を着実に実行し、あらゆるステークホルダーと協調しながら、企業価値・株主価値の最大化に向けて、努力を重ねています。

## 株式の状況 (2009年3月31日現在)

発行可能株式総数 60,000,000株  
発行済株式の総数 22,142,106株  
株主数 3,511名

### 大株主の状況(上位10名)

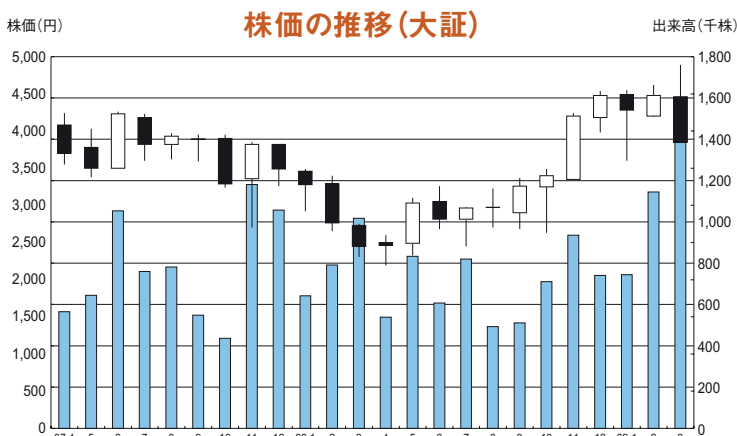
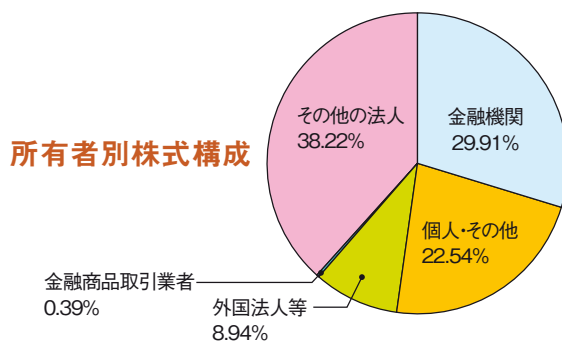
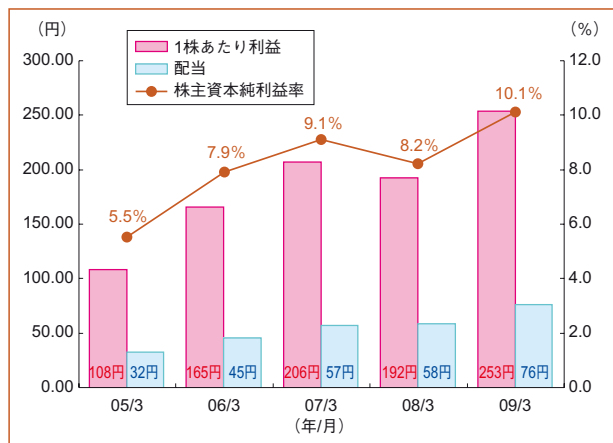
株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	出資比率(%)
株式会社小松安弘興産	6,041	28.93
積水化成成品工業株式会社	716	3.43
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	712	3.41
全国共済農業協同組合連合会	604	2.90
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	559	2.68
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口4G)	508	2.44
エフピコ共栄会	469	2.25
日本マスタートラスト信託銀行(株)(退職給付信託積水化成成品工業口)	450	2.15
株式会社西日本シティ銀行	440	2.11
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(りそな信託銀行(株)再信託分・(株)もみじ銀行退職給付信託口)	381	1.83

(注)1. 持株数は、千株未満を切り捨てて表示しています。  
2. 出資比率は、自己株式数(1,257,341株)を控除して計算しています。



## 安定した配当

株主への利益還元を最重要課題のひとつと考え、収益力の向上と財務体質の強化を図り、継続的かつ安定的な配当を実施していくことを経営方針としています。当事業年度の配当については、上記方針に基づき1株当たり76円の配当(うち中間配当33円)を実施しました。この結果、当事業年度の配当性向は30.0%となりました。





# 消費者とのかかわり

普段は直接コミュニケーションをとる機会のない消費者の方々と積極的にふれあい、エフピコという会社を理解していただきたいと思っています。



## 各種イベントへの参加

全国各地で環境をテーマとしたさまざまな展示会やイベントが開催されています。エフピコではこれらの展示会に積極的に参加し、エフピコ方式リサイクル「トレー to トレー」の仕組みや「エコトレー」をはじめとする環境に配慮した製品を消費者の方々に紹介しています。イベント来場者の方々と直接触れ合う機会を設けることで、トレー回収や環境負荷低減の活動についての意見交換・情報収集を行う貴重な場となっています。

## エフピコが2008年度に参加した主なイベント

日付	イベント名	開催地
2008年 5月 16日～17日	広島市「消費生活展」	広島県
6月 8日	平成20年度「環境の日」ひろしま大会	広島県
7月 6日	マックスバリュ西日本㈱イオンタウン水島店「環境リサイクルフェスティバル」	岡山県
8月 7日	理数キャリア合同体験学習会	広島県
8月 24日	津山市「第32回くらしと消費生活展」	岡山県
9月 25日	2008中国CGCグループ合同商談会	広島県
10月 8日～11日	エコプロダクツ東北2008	宮城県
10月 21日	もみじ・やまぐちビジネスマッチングフェア2008	広島県
10月 26日	福山市「第7回リサイクルフェスタ」	広島県
11月 2日	さんわさわやか高原eco祭2008	広島県
11月 30日	エコフェスタおかやま2008	岡山県
2009年 1月 25日	笠岡市「第26回くらしと消費生活展」	岡山県
3月 29日	同友会感謝祭	広島県



## 出前講座の実施

トレーリサイクルの仕組みと意義を消費者の方々に正しく理解していただき、環境保全への意識を高めていただくために、小学校などからの出前授業や講演会などの要請は積極的にお受けしています。2008年度は主に、神奈川県横浜市の小学校からの依頼にお応えしました。

## 横浜市で実施したグリーン購入出前講座の例

日程	学校名	所在地	日程	学校名	所在地
2008年 6月 20日(金)	鶴ヶ峯小学校	旭区	2008年 9月 3日(水)	山下みどり台小学校	緑区
7月 1日(火)	子安小学校	神奈川区	9月 5日(金)	山田小学校	都筑区
7月 11日(金)	浦舟特別支援学校	南区	11月 13日(木)	希望ヶ丘小学校	旭区
7月 18日(金)	日野中央高等特別支援学校	磯子区	12月 15日(月)	都岡小学校	旭区
7月 25日(金)	北山田小学校	都筑区	2009年 2月 17日(火)	恩田小学校	青葉区

# 障がい者の雇用

障がい者雇用のきっかけは、ダウン症親の会「あひるの会」とのお付き合いから始まりました。当たり前のことが当たり前にできる社会になるよう、エフピコも企業市民のひとりとしてお手伝いさせていただいています。

## エフピコが展開する2つの事業

障がいを持った方々に働く場を提供することは、企業市民としての使命のひとつであると考えます。エフピコでは、1986年に厚生労働大臣から「特例子会社」の認定を受けた株式会社ダックスを、また2006年には障害者自立支援法の「就労継続支援A型」に認定されたエフピコ愛パック株式会社を設立し、障がい者の雇用に努めてきました。その結果、障がい者雇用率は8.48%（2009年3月31日現在）となりました。



### 各事業所での障がい者雇用数

●エフピコ本体及び以下の事業所を除くグループ会社 20名

●特例子会社

株式会社ダックス	20名
株式会社ダックス四国	35名
株式会社ダックス佐賀	5名

合計60名

●就労継続支援A型

エフピコ愛パック株式会社

北海道工場	11名	西宮工場	14名	茨城選別センター	6名
山形工場	10名	福山工場	13名	岐阜選別センター	8名
茨城工場	12名	広島工場	12名	西宮選別センター	21名
岐阜工場	11名	佐賀工場	16名	福山選別センター	19名
				佐賀選別センター	6名

合計159名

総合計：239名

○特例子会社

障がい者の雇用に特別に配慮して、民間企業の中に雇用率制度の特例措置として設立された子会社の事。

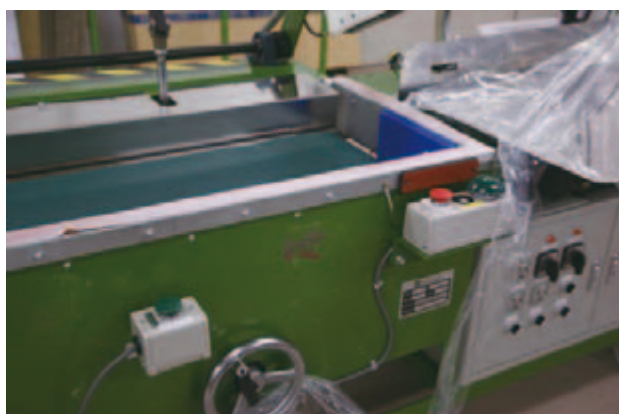
○就労継続支援A型

一般の企業で就労することが困難な障がい者を雇用し、福祉サービスを受けながら就労するスタイルの事業所。

どちらも障がい者を一般の従業員と同様、雇用契約を結び法律で定められた最低賃金を保証して雇用する制度です。

## 障がい者と共に働くための工夫

エフピコで働く障がいを持った従業員が通勤する場合、公共交通機関を使うほか家族の方に送り迎えをしていただいたり、エフピコが送迎バスを出すことがほとんどです。茨城工場では市役所とバス会社に相談して、バス停を工場の近くに作っていただいたこともあります。地域の方々を含め、さまざまな方々の協力なしでこの事業は成り立ちません。



それぞれの職場には必ずサービス管理責任者を配置しています。食事や着替えなど職場での基本的な生活をサポートしながら、支障なく仕事に励めるようさまざまな側面から支援する役割を担っています。サービス管理責任者は、障がい者の支援などの業務における3～10年以上の実務経験に加え2種類の研修を経て、初めて取得できる厳しい資格です。

また、ハード面においてもさまざまな工夫が施されています。例えば作業現場には、異常や危険を探知する装置を多数配置していますので、健常者ならば何でもないちょっと扉を開けるような行為でも、緊急停止装置が作動して事故を未然に防ぎます。

年に2回は家族の方々との親睦会を行っています。そのほかに職場の見学会や、家族の方と一緒に社員旅行にも行きます。いろいろな形でコミュニケーションを取りながら共に働くのは、他のエフピコの職場と変わらない姿です。

◀安全性を確保するために2つのボタンを設置した例。右の緑のスイッチと一緒に左の緑のスイッチも押さないと機械が動きません。両方の手を使うことにより、手を挟んでしまう危険を排除しています。



エフピコ愛バック(株)  
代表取締役社長  
**藤井良朗**

障がい者の方々を雇用する際のプロセスは一般の従業員とほぼ同じです。ハローワークに募集をかけ、応募してきた方を面接し、人柄ややる気などを見て決めます。一番の決め手はやる気です。



エフピコ愛バック(株)  
茨城工場 サービス管理責任者  
**山本純子**

障がい者の従業員とは定期的個別面談を行い、それぞれに合った作業の目標を設定しています。また、市への報告書作りなども私の仕事であり、作業現場に入れば、みんなと同じ作業もするんですよ。



エフピコ愛バック(株)  
茨城工場 工場長  
**草間 実**

作業において高い集中力を発揮してくれるところが、障がい者の方々の特長です。その特長を活かすようにフレキシブルに配置や作業のやり方を考えています。私自身、学ぶことも多いです。



エフピコ愛バック(株)  
リサイクル事業部 係長  
**松永匡史**

平均すると月に10回くらい見学者を迎えます。みんなのモチベーションは上がりますよ。働いて自信を付けた自分を見て欲しいという気持ちが現れていて、こっちは頼もしい気持ちになります。

# お客様とのかかわり

スーパーマーケットなどの小売業・販売業と問屋などの卸売業の方々は、エフピコの直接のお客様です。普段の営業活動のほかに、お客様のビジネスのサポートも考えた製品を一堂に展示する提案型のフェアを開催しています。

## エフピコ・ミニフェアの開催

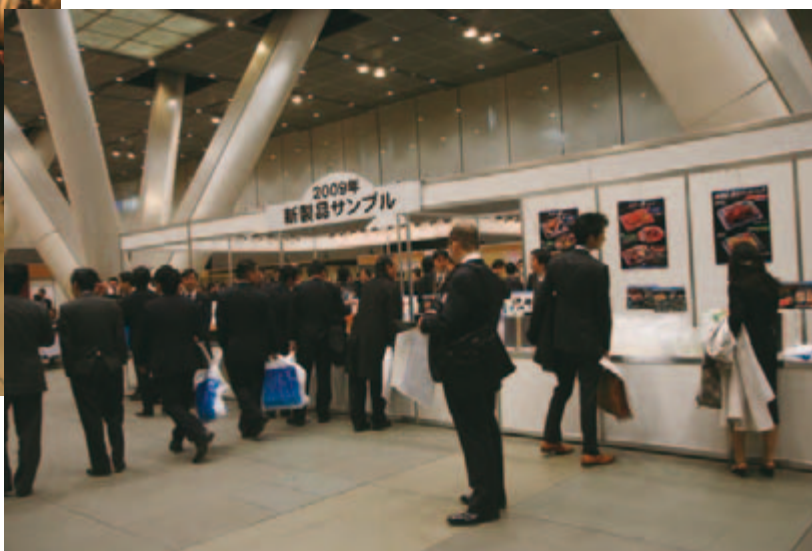
スーパーマーケットなどの小売業・販売業の方々に、エフピコの新製品を活用して、売れる商品や売り場の提案を行うイベント「エフピコ・ミニフェア」を、全国の主要都市で定期的で開催しています。

会場内には、食品容器に本物の食材を盛りつけ、実際の売り場で使用している冷蔵ケースなどの什器に並べることで、スーパーマーケットなどの売り場をそのまま再現。容器だけでなく、POPや展示方法、季節ごとのメニュー提案など、売り上げ拡大のための総合的な提案を行っています。

「エフピコ・ミニフェア2009」開催概要		入場者数
東京(東京国際フォーラム)	3月 11日(水)～12日(木)	約4,300名
大阪(マイドームおおさか)	3月 18日(水)	約2,200名
名古屋(名古屋国際会議場)	3月 25日(水)	約1,300名
福岡(福岡国際会議場)	4月 9日(木)	約1,600名
来場者合計：約9,400名		



◀密閉性など容器の機能をデモンストレーションするコーナー



▶新製品のサンプルをお渡しするコーナー▶

たくさんの来場者で賑わう東京会場。売り場を再現した各展示コーナーに見入るお客様の列は、終日跡を絶ちませんでした。



◆◆ご来場のお客様に伺いました◆◆



第一営業本部  
シニアマネージャー

**鳥越秀志**

このフェアはお客様とのコミュニケーションを目的として開催していますが、その効果はさまざまな形で現れます。エフピコのお考えをお客様に理解していただく過程で、わたしたちはお客様の考えも理解できるようになります。それが製品づくりに反映され、お客様の利益に反映されたりもするのです。本当に貴重な機会ですね。



(株)川和

**川和利行様**

容器のトレンドを探るという目的もありますが、弊社は問屋なので、お客様である小売の方々をこの会場にお連れしています。エフピコさんの単独フェアなので、アテンドしやすいという利点もありますね。このフェアはわれわれにとってお客様への貴重な提案の場として、有効活用させていただいています。



(株)三味(ヤオコーグループ)

**内田 猛様**

今日は新しいシーズンに向けた新規商品を見たくて来ました。またエフピコさんは容器を含めた商品の提案や売り場の提案もしているので、何か参考になるものがあればと思っています。エフピコさんの商品化の方向性はわれわれの考えと合っていますので、役立つ情報はあると思います。



小田急食品(株)

**土岐田明男様**

弊社は主にお寿司関連の商品を扱っていますので、そのあたりの容器を見たいと思って来ました。それと、今のスーパーさんの売り場のトレンドの情報もこのフェアで得られると思っています。従来とは違う見せ方が出来そうな容器もありましたので、参考にさせていただきます。

# 従業員とのかかわり

エフピコが短期間で急成長できた理由のひとつは、マネジメントと従業員との協働関係にあります。それはエフピコの伝統とも言える財産なのです。



## 中国ニューオフィス推進賞を受賞①



日本経済新聞社と社団法人ニューオフィス推進協議会が主催する第21回日経ニューオフィス賞において、本社社屋が「中国ニューオフィス推進賞」を受賞しました。快適性や機能性などを始めとした、オフィスの総合的な就業環境の充実が評価されての受賞です。本社は従業員間のコミュニケーションの円滑化と十分な就労スペースの確保に重点を置いて設計されていますが、設計の意図が具現化できたことの証であると自負しています。

## オフィス内アメニティの充実②③

本社の3階部分には、社員食堂に隣接したサンデッキを設けています。天気の良い日には昼食や食後の語らいのひとつきに活用されています。

また、食堂内には業務用の空気清浄機を設置しています。この清浄機は病院や食品工場などの現場で使用されるもので、室内の浮遊菌を殺菌します。空気中のウイルスや細菌、また花粉の除去にも効果があり、従業員の健康管理に寄与しています。

## e-ラーニングの活用④

2008年に「学Navi」～エフピコキャンパス～が、社内e-ラーニングシステムとして開設されました。これは従業員にさまざまな学習機会を提供するためのウェブシステムで、基本知識の共有と平準化を図っています。財務会計、IT、コンプライアンス、環境など講座は多岐にわたります。社員のスキルアップのため、コンテンツの更なる充実を目指しています。

## 「エフピコ倶楽部」による福利厚生サービスの提供

従業員のための福利厚生を目的にスタートした会員制の「エフピコ倶楽部」では、以下のようなさまざまな特典を従業員に提供しています。

- 保養所・ホテル割引宿泊
- 有名レストランやパーティ会場料金割引
- 掃除やプリントサービス料金割引
- 各種カルチャースクール利用料金割引
- ゴルフ場利用料金割引
- 映画鑑賞・観劇券割引
- 通信販売利用料金割引



## 海外流通市場への視察 ⑤

海外の流通現場の様子を肌で感じるために、入社10年以上の従業員を対象とした海外研修を行っています。訪問先となる米国の主要都市で、スーパーマーケットなどの販売現場を巡り、日本とは異なる文化圏での販売スタイルを学びます。この研修制度は1979年にスタートしてから毎年続けられています。

## 「子育てにやさしい企業」としての認定取得 ⑥

2005年に施行された「次世代育成支援対策推進法」に基づき、エフピコでは仕事と育児を両立して働ける環境づくりに向けた行動計画を策定、実施してきました。その努力が実り、2008年7月に広島労働局より「基準適合一般事業主認定通知書」が授与され、『子育てにやさしい企業』として公的に認められました。女性社員のみならず男性社員による育児休業の取得、小さい子供を持つ従業員への短時間勤務制度、時間外労働の削減など、さまざまな成果が評価されたのです。

⑥





**財務部 岡本佳子**

息子と娘の2回、育児休暇を取得しました。今は子供達は保育所に通い、私は職場復帰しています。息子のときはフルタイムで勤務し帰宅してからは毎日大忙しでしたが、娘のときは短時間勤務制度を利用したおかげで、心と時間に余裕ができ、子供達と接する時間も増えて楽しく仕事と育児の両立ができています。短時間でも密度の濃い仕事をし、良いモデルケースとなることで、これから育児を目指す方がより一層、育児支援制度を利用しやすい環境となるよう協力できたらと思います。

# 地域とのかかわり

地域社会の一員として、周辺住民の方々とともに地域の発展に貢献していくため、さまざまな活動を行っています。



## 修大エコチャレンジ「エフピコ賞」

このコンテストは広島修道大学が主催するもので、人々のライフスタイルを環境に配慮したものにシフトさせる仕組みとメッセージを広島から発信し、人々が幸せを感じられる持続可能な社会の実現に寄与することを目指しています。エフピコはこのコンテストで「エフピコ賞」の提供という形で協賛しています。

## 近隣の清掃活動

2008年11月28日、環境にやさしい地域づくりを目指した活動を展開する「ひろしま地球環境フォーラム」の活動の一環として、13名の参加者が本社周辺の道路、公園、駐車場等を回り、ゴミを拾いました。清掃活動中には、地域住民の方々から声をかけていただき、参加者と地域の方々とのコミュニケーションを深めることもできました。



## 「ぐるぐるリサイクル家族」の配布

食品トレーと透明容器のリサイクル推進を目的とした15分のビデオを制作し、各地の小学校などの公共機関に無料配布しています。このビデオにはプロの役者が登場し、コメディタッチでリサイクルの方法を分かりやすく説明しています。エフピコが制作したのですが、ビデオの中でも社名は出さず、企業色を排除したい公共機関などでも使っていただけよう配慮しました。

ビデオ (DVDに収録) をご希望の方は、巻末のエフピコ環境対策室までご連絡ください。

## 上勝町ICTプロジェクトへの参画

2008年11月8日、お年寄りによる「葉っぱビジネス」を事業化して村おこしに成功した徳島県の上勝町が取り組むICT（情報通信関連技術）のイベントにエフピコも参加しました。福山からパソコンを通してインターネットフォーラムに出演し、上勝町が推進するゴミゼロ政策にも関連するリサイクル事業の取り組みについて意見を述べました。



## 消防訓練の定期的な実施

エフピコの工場では可燃性のプラスチックを扱うため、万一の事態に備えて消防署の指導のもと、総合消防訓練を定期的実施し、迅速な初期消火や避難ができるよう備えています。近隣の住民の方々に安心を提供するのもエフピコの役目と考えています。



# エフピコのあゆみ

## 沿革・表彰

1962	7月 福山パール紙工(株)設立。広島県福山市霞町に本社を設置し、PSP成型加工を開始。	1998	10月 福山配送センターに新倉庫竣工
1968	3月 業容発展に伴い、本社を現在地(福山市曙町)に移転。	1999	2月 代表取締役社長小松安弘が「第19回毎日経済人賞」を受賞 4月 エフピコモダンバックにて、カタログ販売を開始 10月 新素材容器「ハイスター」を開発 「リサイクル推進功労者等表彰事業」にて「内閣総理大臣賞」受賞
1971	1月 ウッド組立食品容器の製造を開始。		
1972	4月 福山配送センターを開設。		
1975	9月 総合包装用品販売のチェーン店「モダンバック」を福山市に設立。	2000	1月 特例子会社(株)ダックス四国本社工場(高知県)を竣工 MAPS(容器内気体調節式包装システム)デザインセンター(福山市)を新設し実験開始 3月 東京証券取引所市場第二部に株式上場 関東つくば工場(茨城県)を稼働開始 5月 エフピコモダンバックにて、インターネットとCD-ROMを利用した通信販売を開始 7月 関東下館工場(茨城県)を稼働開始 10月 近畿亀岡工場(京都府)を稼働開始
1976	6月 自社製品の展示会「パールフェア(現エフピコフェア)」第1回目を開催。		
1979	7月 配送体制強化のためエフピコ物流(株)を設立。		
1980	1月 物流の合理化、効率化のため福山第一配送センターを開設。このころからトレー容器のゴミ処理問題が発生、使用済みトレーの回収をいち早く開始する。	2001	2月 関東第2配送センター(茨城県)を稼働開始 5月 「エンターパック(ワンタッチ自動トップシール機)」の国内独占販売契約を韓国エンターライン社と締結 7月 「第4回エコライフびわ湖賞」にて「アイディア部門優秀賞」受賞 11月 東京支店を東京本社に昇格し、福山、東京2本社制に変更 東京本社にキッチンスタジオを開設
1981	6月 食品容器のファッション化に対応して、カラー食品容器の製造販売を開始。	2002	2月 更生会社中国パール販売(株)及び更生会社バックドール(株)の再建スポンサーとして会社更生手続き開始
1982	3月 高級食品容器製造のため、定位置成型技術を開発。	2003	1月 更生会社中国パール販売(株)及び更生会社バックドール(株)の更生計画認可決定 (バックドール(株)は平成15年5月更生手続き終結、中国パール販売(株)は平成17年5月更生手続き終結) 7月 東日本ハブセンター完工 山形工場稼働開始(山形県寒河江市) 11月 「ウエステック大賞2003」にて「事業活動部門賞」受賞
1983	4月 東京支店を開設。 10月 大型ホストコンピュータを導入し、EDI(電子データ交換)による受発注を開始。PSP製電子レンジ用耐熱容器を開発。	2004	3月 東日本サンプルセンター(茨城県坂東市)、西日本サンプルセンター(広島県福山市)を開設 5月 東北配送センター(宮城県黒川郡)を山形工場(山形県寒河江市)隣接地へ移転 12月 東京本社2階にテイクアウトの形態で容器とメニューの研究開発を目的とする惣菜店舗「Cook Labo(クックラボ)」を開設
1984	5月 代表取締役社長小松安弘がPSP成型加工工業組合理事長に就任。	2005	9月 東京証券取引所市場及び大阪証券取引所市場第一部に株式上場 「愛・地球賞(財)日本国際博覧会協会・日本経済新聞社主催」を受賞
1985	1月 東京配送センターを開設。 2月 総合展示会「パールフェア」を初めて東京で開催。大阪支店を開設。 5月 福山第二配送センターを開設。 6月 総合展示会「パールフェア」を初めて大阪で開催。	2006	6月 サンプル受付センターを稼働開始 特例子会社(株)ダックス佐賀設立 9月 (株)ダックス四国が独立行政法人高齢・障害者雇用支援理事長賞受賞 10月 就労継続支援A型子会社を目的とする「広島愛バック(株)」設立 12月 「財)小松育英会」設立
1987	1月 ソリッド食品容器の原反生産から成型加工までの一貫生産を開始。 4月 100%出資の子会社エフピコ商事(株)を設立。 9月 大幅な省人化を果たす笠岡工場(岡山県)を竣工。 12月 フロンガスを使用したPSPを全廃。	2007	2月 関東下館第2工場を稼働開始 3月 就労継続支援A型子会社を目的とする「エフピコ愛バック(株)」設立 4月 「第1回容器包装3R推進環境大臣賞」にて「製品部門最優秀賞」受賞 8月 エフピコ八千代センターを稼働開始 エフピコ愛バック(株)佐賀工場を稼働開始 「ものづくり大賞」にて「経済局長賞」受賞
1988	3月 カイズファイバー社(米国)を通じ、南ア・ホルデンリミテッド社と技術供与契約を締結。関東配送センターを開設。 12月 ワシントンで開かれたFPI(全米食品サービス容器協会)総会に代表取締役社長小松安弘が出席し、地球環境問題などについて演説をおこなう。	2008	9月 エフピコ愛バック(株)岐阜工場、茨城工場を稼働開始 10月 エフピコ愛バック(株)西宮工場、山形工場を稼働開始 12月 本社新社屋(福山)竣工
1989	1月 CIを導入、商号を株式会社エフピコに改める。 7月 中部配送センターを開設。 11月 広島証券取引所に株式上場。	2009	2月 退職者の親睦団体である「エフピコ松栄会」設立 8月 日本経済新聞社と(社)ニューオフィス推進協議会が主催する「第21回日経ニューオフィス推進賞」にて「中国ニューオフィス推進賞」を受賞
1990	12月 東北配送センターを開設。	2009	3月 第1回ふくやま環境賞「事業所部門」受賞
1991	2月 大阪証券取引所市場第二部に株式上場 4月 新物流センター本部を開設 パルディーズ研究会「会員部門最高得点票賞」受賞 5月 九州配送センターを開設		
1992	10月 「リサイクル推進功労者等表彰事業」にて東北リサイクル工場が「平成4年度リサイクル推進功労者賞」受賞 12月 リンバック プラスチックス インターナショナル社(英国)と技術供与契約を締結		
1993	3月 (財)クリーン・ジャパン・センター主催「再資源化貢献企業表彰事業」にて「クリーン・ジャパン・センター会長賞」受賞		
1994	10月 関西配送センターを開設		
1995	4月 物流業務全般をエフピコ物流(株)に移管		
1996	2月 「兵庫県環境にやさしい事業者賞」受賞 4月 第22回「エフピコフェア96」を東京で開催。以降、毎年4月に東京ビッグサイトで開催 6月 「第4回横浜環境保全活動賞」受賞 10月 「リサイクル推進功労者等表彰事業」にて中部リサイクル工場が「通商産業大臣賞」受賞		
1997	1月 ホームページを開設 3月 (財)クリーン・ジャパン・センター主催「再資源化貢献企業表彰事業」にて「通商産業省環境立地局長賞」受賞 5月 代表取締役社長小松安弘が「藍綬褒章」を受賞 6月 福山リサイクル工場が「ひろしま環境賞」受賞 8月 「HMRトップセミナー」を開催 9月 社団法人大垣青年会議所主催「西美濃共創アワード'97」にて「こんな会社を誇りにしま賞」受賞 10月 日本食糧新聞主催「第6回日食環境資源協力賞」受賞 「リサイクル推進功労者等表彰事業」にて福山リサイクル工場が「リサイクル推進協議会会長賞」受賞 12月 新素材容器「エクスター」を開発し、一貫生産のため福山工場(福山市)を竣工		

1990	9月 エフビコ方式のリサイクルスタート 12月 笠岡リサイクルセンター稼働開始	8月 IPCC(気候変動に関する政府間パネル)が地球温暖化を警告
1991	10月 関東リサイクルセンター稼働開始 東北リサイクルセンター稼働開始 エコトレーが業界初のエコマーク認定	10月 「資源の有効な利用の促進に関する法律(通称:リサイクル法)」施行
1992	3月 エコトレー販売開始 4月 環境対策室設置 5月 中部リサイクルセンター稼働開始 7月 鳥取市が当社と協力して自治体で初めてトレー回収を開始 9月 九州リサイクルセンター稼働開始 10月 学校回収スタート、社内のトレー回収スタート	6月 リオデジャネイロで第1回地球サミット開催
1993	2月 福山リサイクルセンター稼働開始 12月 沖縄減容工場稼働開始	2月 国連が「持続可能な開発委員会」を発足 11月 「環境基本法」施行
1995		7月 「製造物責任法(PL法)」施行
1996	2月 北海道リサイクルセンター稼働開始 6月 トレー回収拠点5,000拠点到 8月 エフビコ物流(株)が「グリーン経営認証」取得 11月 沼津リサイクルセンター稼働開始	
1997		4月 「容器包装リサイクル法」施行(ペットボトル、ガラス) 12月 COP3(第3回気候変動枠組み条約締約国会議)が京都で開催 「京都議定書」採択
1998	4月 関東リサイクルセンターにカートトレー自動選別機導入 7月 工場見学者累計100,000人突破 8月 福山リサイクルセンターに自動素材選別機導入	
1999	4月 主力3工場(岡山県笠岡工場、広島県福山工場、福山リサイクルセンター)でISO14001 認証取得 8月 トレー回収拠点6,000 拠点突破	7月 官報(号外第143号)容器包装リサイクル法にて当社のリサイクル及び 「トレー to トレー」の再商品化が明文化される。
2000	5月 エコトレーが第20類で商標登録(第4387266号) トレー回収量月間450トンを記録 10月 各リサイクルセンターをリサイクル工場に呼称変更 11月 関東リサイクル第1工場稼働開始 旧工場を関東リサイクル第2工場に改称	1月 「ダイオキシン類対策特別措置法」施行 4月 「容器包装リサイクル法」の全面実施(その他紙及びその他プラが追加) 5月 O-157 発生 6月 「循環型社会形成推進基本法」施行
2001	5月 東海リサイクル工場(旧沼津リサイクルセンター)閉鎖 9月 福山リサイクル工場に透明容器リサイクル専用ライン新設	4月 「グリーン購入法」施行 「家電リサイクル法」施行 5月 「食品リサイクル法」施行 9月 BSE 発生
2002		4月 「PRTR法」施行 「建設資材リサイクル法」施行
2003	2月 関東リサイクル第1工場でISO14001 認証取得 3月 岡山県にて「エコトレー」がエコ製品に認定 4月 関東リサイクル第1、第2工場を集約 関東リサイクル工場に改称 5月 佐賀県にて「エコトレー」が廃棄物リサイクル製品に認定 6月 岐阜県にて「エコトレー」が廃棄物リサイクル製品に認定 10月 宮城県にて「エコトレー」が廃棄物再生資源利用製品に認定 11月 工場見学者 累計200,000人突破	2月 「土壌汚染対策法」施行 4月 「改正省エネ法」施行 6月 「食品安全基本法」施行 7月 食品安全基本法施行に伴ない内閣府に食品安全委員会設置
2004	3月 広島県にて「エコトレー」がリサイクル製品登録制度に登録 12月 「トレー to トレー」が第20類&第40類で商標登録(第4322974号)	1月 鳥インフルエンザ発生
2005	4月 CO2 マネジメント委員会設置 5月 「エコトレー」が第40類で商標登録(第4864115号) 8月 笠岡工場が岡山県エコ事業所として認定 11月 笠岡工場ISO9001 認証取得	1月 「自動車リサイクル法」施行 2月 「京都議定書」発効
2006	3月 関東下館工場ISO9001 認証取得 回収量月間550トンを記録 近畿亀岡工場ISO9001 認証取得 4月 環境経営5ヵ年計画スタート 7月 宮城県にて「エコトレー」廃棄物リサイクル製品認定からグリーン製品認定へ呼称変更 8月 エフビコ物流(株)が「グリーン経営認証」取得	4月 「改正省エネ法」施行 「改正温対法」施行
2007	3月 回収量月間579トンを記録 4月 岐阜県にて「エコトレー」廃棄物リサイクル製品認定からリサイクル製品認定へ呼称変更 10月 屋上緑化対応の工場稼働(中部第2工場) 12月 太陽光発電システムを備えた本社新社屋の落成 透明容器の光学式自動素材選別装置稼働開始	4月 「改正容器包装リサイクル法」施行 12月 「改正食品リサイクル法」施行
2008	7月 佐賀県にて「エコトレー」廃棄物リサイクル製品認定からリサイクル製品認定へ呼称変更 8月 茨城選別センターを稼働開始 10月 西宮選別センター、岐阜選別センターを稼働開始	
2009	1月 福山選別センターを稼働開始 (株)金沢容器リサイクルを稼働開始	



## ● 編集後記 ●

エフピコ「CSR Report 2009」を最後までご覧いただきまして誠にありがとうございます。2008年度の最も大きなトピックスとしては、透明容器のリサイクルを本格的に始動したこと、そして環境経営新中期計画をスタートさせたことです。

透明容器のリサイクルは、かねてから消費者の方々より大きな期待を寄せられておりました。食生活の多様化により増えていった透明容器を回収し、リサイクルするようになるまでの道のりは決して平坦ではありませんでした。しかし、拡大生産者責任を果たしたいという思いが実現できたことは、感慨深いものがあります。

また、環境経営新中期計画もエフピコの思いを実現するための大きなステップとなるでしょう。今までの縦割りの環境対策を改め、部署間にまたがる連動したアクションにより、CO<sub>2</sub>を大幅に削減する取り組みにチャレンジします。

CSRレポートへのご意見を頂くアンケートに関してですが、今年度よりアンケートの記入をウェブ入力方式に切り替えることとしました。読者の方にファックスをお送りいただく手間を省くと同時に、アンケート用紙を印刷することで発生するCO<sub>2</sub>も削減いたします。アンケートの入力は以下にアクセスいただけますよう、お願い申し上げます。

<http://www.fpco.co.jp/csr.html>

今後も皆さまのご意見を参考に継続的な改善を進めてまいりますので、アンケートにお答えいただければ幸いに存じます。

次回は2010年6月発行を予定しております。発行にあたりご協力いただいた社内外の関係者の皆さまに感謝いたします。

2009年6月  
環境対策室 松尾和則

# CSR Report 2009

発行日：2009年6月

制作部門・問い合わせ先

株式会社エフピコ 環境対策室

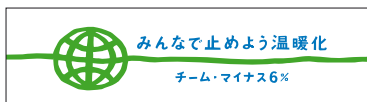
〒163-6036 東京都新宿区西新宿六丁目8番1号 新宿オークタワー（総合受付36階）

TEL 03-5325-7800 FAX 03-5325-7811 E-mail: EcoTray-3R@fpco-net.co.jp

ホームページ：http://www.fpco.co.jp

## 2009 CSR Report

To be a company that links people with people,  
people with nature, and companies with society.



エフピコは「エコトレー」でチーム・マイナス6%に参加しています。



- 本 社 〒721-8607 広島県福山市曙町1丁目12番15号 TEL (084) 953-1145
- 東京本社 〒163-6036 東京都新宿区西新宿6-8-1 新宿オークタワー36F TEL (03) 5320-0717
- 大阪支店 〒560-0083 大阪府豊中市新千里西町1-1-8 第一火災千里中央ビル6F TEL (06) 6835-5370
- 札幌 ●仙台 ●新潟 ●静岡 ●北陸 ●名古屋 ●広島 ●高松 ●福岡

ホームページ <http://www.fpcoco.jp/>

eメール [EcoTray-3R@fpcoco-net.co.jp](mailto:EcoTray-3R@fpcoco-net.co.jp)